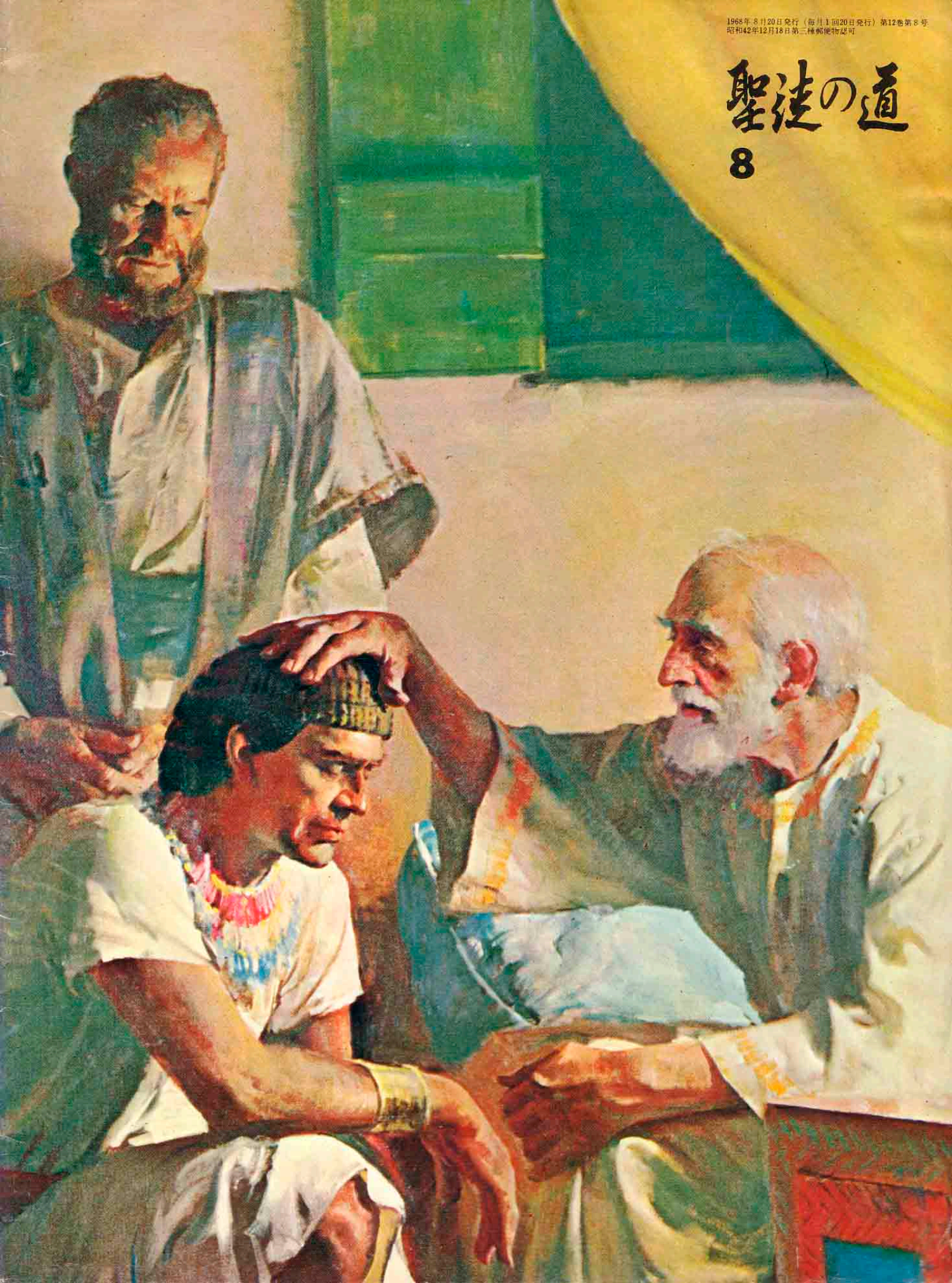
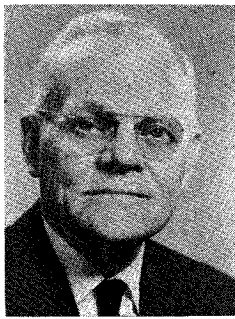


聖徒の道

8





心の糧

十二使徒評議員

マリオン G. ロムニー

神

は世のはじめから全人類のだれでも神を知ることができるようにされ給うた。現在、神の証人であるわれわれが、人々に神の形と性質についての予言者や自分の証詞を述べるとき、それは単に「証詞をせよ」との責任を果しているに過ぎない。この証詞があなた方に伝えられるにつれて、その証拠と信頼性を決定する責任はあなた方に移って行く。この重要性を見落してはならない。永遠の生命とは、神と御子イエス・キリストを知ることである。これを知らずして、人間は救われない。そしてこれを知る唯一の道は、天父と御子イエス・キリストと聖霊との啓示が真理であるという証詞を自分で得ることである。生ける神を知ろうとする十分強い望みをもって、示された道を歩いて行ける者なら、この証詞をうけ得るであろう。その時、聖典の主のみ言葉が明らかとなるであろう。

しかし、自ら追い求めぬ者は、いつまでも神の啓示を理解できないであろう。

も く じ

予言者のことば

「永遠の生命とは何か」……………大管長 デビド O. マッケイ… 171

「教会は必要か」…………… ハワード W. ハンター… 173

「卓越のむくい」…………… ジェームズ T. デューク… 175

管理監督会のページ

「克己」…………… ジョン H. バンデンバーグ… 177

扶助協会

「大いなる模範者母なるイブ」…………… マリオン G. ロムニー… 179

日曜学校

「あなたの期待は」…………… ミルフォード C. コットレル… 182

「忠実なる信仰」…………… 大管長 デビド O. マッケイ… 184

「報われたクロービス支部の信仰」…………… バージル N. コバレンコ… 185

「からっぽの本立」…………… フロレンス B. ピノック… 187

若人のページ

「教会の若人のために」…………… 188

「ディネの息子」…………… ドン・スミス… 189

MIA

「生きんとする者のMIA」…………… 191

系 図

「わたくしの親族は誰か」…………… 193

総大会特集Ⅱ…………… 195

ローカルニュース…………… 203

「律法なき生活」…………… リチャード L. エバンズ… 裏表紙

子供 の ページ

「たいせつな子」…………… ロザリー W. ドス… 33

「アフリカ最大のなぞ」…………… クリストファー・フリント… 37

「デイビィ」…………… ジェー・シー・ディム… 40

教会歴史

8月26日

1923年カナダのアルバータ神
殿献堂さる

今月の表紙

忠実な信仰によりイスラエルと名づけられた族長（祝福師）ヤコブは「ヨセフは実を結ぶ若木、泉のほとりの実を結ぶ若木。その枝は、かきねを越えるであろう。」と愛する息子ヨセフを祝福した。（創世記49章参照）ハリー・アンダーソン画

永遠の 生命 とは何か



デビッド O. マッケイ 大管長

贖 い主イエスが、とりなしを願う大いなる祈りを捧げられたのは、ケデロンを渡る時、兵士の手に売り渡す裏切者の口づけを受けられる寸前のことであった。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」（ヨハネ17：3）

永遠の生命とは、神とその独り子を知ることである。そこに鍵がある。永遠の生命こそ私が望むものであり、この私と私の愛する人々、あなた方、そしてこの世のすべての人々にとって永遠の生命は、何よりも熱望されるものである。そして、救い主のこの御言葉の中に、その秘密があるのである。

いかにイエスを知るか

しかし、どうしたら知れるだろうか。これが次の問題である。主ご自身これにお答えになられたであろうか。もしそうなら、この大切な答えは是非知りたいものである。昔、日々イエスに近くあったものの記録をみると、かつて人々がイエスに反対を叫んだことがあった。今日の人々の如く、その御業に反対したのである。一人が言った。「お前の言うことが真実とどうして判るのか。神の子というお前の主張をどうして真と認められるのか。」イエスは簡潔にお答えになった。

「神のみこころを行おうと思ふ者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:17)

この答は非常に賢明であり、人智の考える限りの最も簡潔な知識を個人にもたらす教である。実行して、心の中に植えてみれば、善し悪しが判然とするであろう。他人にその確信は伝え得ないかも知れないが、自分ではよく判る。実行してみたからである。イエスはこのような試しの答えを、その教えが神のものか人のものか尋ねた人々にお与えになったのであった。

「^{みこころ}御意」は示されている

神の御意を行ってみさえすれば判るという答えがでた。しかし、次に、「御意」とは何かということが問題となる。しかし、ここにこそイエス・キリストの福音の精髓が宿るのである。永遠の生命の定義、それを知る方法と試練について教えられると同じく簡潔に、イエスはその御意をお示しになった。

末日聖徒イエス・キリスト教会の全世界に対する証詞は、神の御意が、この現代に示されたということである。すなわち、福音の原則、生活の原則が啓示されたのである。そしてこれらは昔、時の絶頂にキリスト御自ら教え給うた原則と一致している。

人間を真理に導く生まれながらの気持があるが、それは人類の責任でもある。そして教会員たちの責任は他の人々よりも重いのである。

教義と聖約88章に次の言葉がある。

「必ずしもすべての人信仰なきが故に、汝ら努めて求め、互いに智慧ある言葉を教うべし。然り、汝ら最も善き書より智慧ある言葉を探し求めよ。(いかにしてか)また正に研究(世の求めるこれのみによらず)と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約 88・118)

教会員は永遠の福音が回復された真理を知っている。この知識のもたらすものは何か、それは悔改めとバプテスマの原則に心から従った者に聖霊の賜物をもたらす。それは人の心を啓発し、理解を助け、キリストを知らしめるものである。これは世の持たぬ導きであり、会員たちが真理を得、自らの務めを知ろうと望む時に助けを与える。この助けがなくてはならない。人自らでは真理は発見し得ないからである。知性のみでは神の発見に不十分である。顕微鏡による神の発見は不可能といわれてきた。真理の探究に理性のみでは満足ではない。もう一つの、更に確実な導きがあるのである。

知識と行い

その導きとは信仰である。信仰はよるずのものを想い出させ、来るべきものを示し、すべてを教えるかの高きみたまとの交りにわれわれの霊を導く。そのみたまを頂くことは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員たちの責任である。

単なる知識、確信のみでは不十分である。「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」(ヨハネ4:17)

予言者ジョセフ・スミスは次のように言った。

「この故に今や神権者皆各々その義務を覚え。また己が任命されたる務めを全く勤勉に勤むべし」自分の義務をわきまへはするが、行わぬ者は自分にも、兄弟たちにも忠実ではない。神と良心との光に歩んではいけない。その光の中にこそ教会は在りそしてその光はまっすぐあなた方にも、私にもそそがれるのである。ある一つの道を行けと良心が命ずる時、その正しいことに従わぬならば、自分に忠実ではないのである。

人間は己れの弱点につまずき、外からの力にまよる。しかし、われわれの責務は直く狭き道を歩むことである。しかし、機会があるにもかかわらず、内なる真理に背くたびに、良き行いを行わぬたびに、自己を弱め、また未来の行いは更に困難になるのである。一方、良き行いのたびに、気高い気持を表すたびに、その行いやその気持を表すことは、更に容易になるのである。

「御意」とは何か

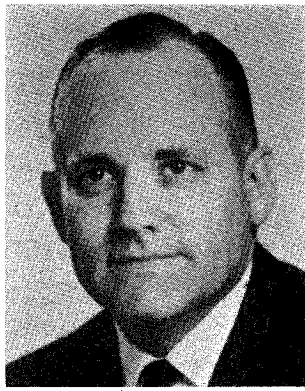
神の御意とは、兄弟たちへのわれわれの愛と奉仕であり、この世をわれわれの生活によって、一層よくする事である。キリストはこの原則の教えのため、そのすべてをお捧げになった。

「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)これこそ神の御言葉である。

この教会は神の教会である。すなわち、大人も子供も他の人々のために何か善をなす機会を持つように完全に組織されている。神に仕え、その御意を行うことは神権者や補助組織の、そして、すべて全員の務めである。それを行えば行いう程、これが神の御業との確信はいよいよ強くなるであろう。それを試しているからである。故に、神の御意を行うことにより、人は神を知り、近づき、永遠の生命を己が物と感ずるようになるのである。

神が人に啓示し給うことは、主の復活、この大いなる業の神より出でしこと、及び、神が単なる力や抽象物としてではなく、天の父として存在し給うという大いにして聖き永遠の真理なのである。

教会は必要か



十二使徒評議員 ハワード W. ハンター長老

良きキリスト教徒、または立派なキリスト教徒の生活にとって、教会、あるいは宗教上の組織に属することは必ずしも必要ではないという言葉を経験したことであろうか。聖典や、正しい考え方に照らし合わせて、この問題を少々とり上げてみたいと思う。

初めに先ず、キリストのみ言葉をみてみよう。主は群衆にお語りになって、

「主よ、主よと言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」(マタイ 7:21)

と云われた。この意味は、「人は、私の権能を認め、私が神であることを信じ、私の教えや贖いに対する信仰を単に告白したからといって、必ずしも天国に入ったり、あるいは、高い昇栄に進むということではない」ということであるように聞える。すなわち「信ずることのみでは不十分である」ということである。そして、はっきりと云われている。「ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけ」と、すなわち良き実を結ぶぶどう園の手入れにいそむ者のことである。

正しい生活の啓示である知恵の言葉には、人間の益とならないものと共に、益となるものがのべられている。更に主は言い給うた。

「およそこれらの言葉を憶えて守り、且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒らはそのへそに健康を受け、その骨に髓を受けん。また知恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわちさつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く彼らを過ぎこして屠ることなかるべし。」

「これらの言葉を守り且つ行い」が鍵と思われる。この祝福のためには、み言葉をただ信ずるものとならず、行う者で

なければならない。

ひろく世界に散った十二支族にあてた書簡でヤコブは次のようにすすめた。

「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない。おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう。これに反して完全な自由の律法を一心に見つめてたまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」

(ヤコブ 1:22~25)

このヤコブの言葉には歴史的背景がある。伝えられた記録によると、キリストがお建てになり、十二使徒が世界にひろめた初期の教会は、ユダヤ会堂で行われていたような礼拝形式ののりとして、旧約聖書の聖句朗読を行っていた。今日の新約聖書はまだその形を成してはいなかったが、しかし、イエスと使徒たちの教えは明らかに宣べられていたのである。詩篇と当時の讚美歌を歌い、祈りを捧げたのであった。ヤコブは、この礼拝に出ることを云ったのであろう。「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない。」ヤコブによれば、礼拝に参加することの価値は、聞いたみ言葉を行った時に初めてあらわれる。耳にした真理を実行せずして、自ら信仰ありとする者は、鏡に瞬間うつっては、すぐに忘れ去られる姿のような無益な礼拝しか行い得ない。

パウロも同様のことをロマ書の中で律法の要求について次のように述べている。「律法を聞く者が、神の前に義なるものではなく、律法を行う者が、義とされるからである。(ローマ 2:13) つまり、義人とは律法を聞く者ではなく、行

う者ということである。この言葉の対象は、昔ながらの宗教的伝統を名目的に守ってれば、祝福にあずかれるという誤った考えの下にいる者たちであった。ただ唇で礼拝するのみで律法を行わぬ者であった。

「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。わたしのもとにきて、わたしの言葉を聞いて行う者が、何に似ているか、あなたがたに教えよう。それは、地を深く掘り、岩の上に土台をすえて家を建てる人に似ている。洪水が出て激流がその家に押し寄せてきても、それを揺り動かすことはできない。よく建ててあるからである。しかし聞いても行わない人は、土台なしで、砂の上に家を建てた人に似ている。激流がその家に押し寄せてきたら、たちまち倒れてしまい、その被害は大きいのである。(ルカ 6:46~49) この同じ原則は他のことについても同様である。友情は利己主義の砂の上には建たない。肉体的な魅力のみでより深い愛と誠実に欠ける結婚は永続しない。教会と個人間の関係も同様で、伝統や正統的慣行だけでは不十分であり、また「主よ、主よ」というだけでも不十分である。それらの基は砂の上にある。神の治め給う全自然はこの原則をうつし出している。

働かない蜂は巣を追い出される。道や蜂塚の周りの忙しい蟻たちは、信ずる者のみではなく行う者であるし、鶏は、コッコと鳴いても、地面を足でかかなければ種はみつからない。藻で縁によどんで流れぬ水は、疫病の沼となり、岩をせせる清い山のせせらぎは、見るからに飲みたくなるものである。基を欠く家に関する主のみ言葉は、人間は自分だけで十分であるとし、安易なものを基として、いかなる生活を打ち建てはいけないということである。

万事順調である限り、愚かさは現れないが、いつ逆境の洪水、突然の情慾の洪水、予期せぬ誘惑の奔流などが来ぬとも限らない。人格に唇の礼拝以上の確実な基礎がなければ、その道徳はたちまち崩れ去るであろう。

良心的な強い基を打ち建て、天父の御意を行うにはどうしたらよいだろうか。ただ聞く者とならず、行う者となるにはどうすべきか。神の律法と救い主の教えのほとんどすべての例は、自分と他人との間柄に関係がある。すなわち、人は孤立しては、行うものとしてもおのずと限界があるのである。

例えば自動車は一人だけの力でなく、その目的のために結集した人々の力で作られ、市場に出る。われわれの社会では独学の人はほとんどおらず、教育は多数の人から成る教育機関に依存している。実業界、産業界においても、共通の目的の下に結集した人々が成功を収める。一人だけでは不可能なことの何と多くが協力によって成し遂げられることか。

個人の次にくる社会的集合体は家庭である。キリストの原則に基く家はキリスト教徒的生き方の最高の例である。家族

の一人一人が行う者として、また最高度に誠命を実行する能力を伸ばす機会と特権とを与えられる。この家族の単位を教会という大きな共同社会にまで高めてくると、行う者としての機会はいよいよ大きくなっていく。この拡大され高められた家族関係の故にキリスト教では、神を「父」、イエスを「兄」、そして互いを「兄弟、姉妹」と呼ぶのである。

教会の目的は主の律法と福音の原則を教え、一人々々を宗教的に導き、神が在し、イエスがキリスト、すなわち世の救い主であるという証詞を植えつけ、「行い」を通じて、日の栄光に到る永遠の道を歩くようにはげますことである。

キリストがなぜ、御自らこの世においてになって教会を建てられたのか、真の理由がある。単に理解のためのみならばイエスが遣わされた人々の言葉を聞きさえすれば十分であろう。

「主よ、主よと言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」(マタイ 7:21)

「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行うすべての聖徒らは……。」(教義と聖約 89:18)

「律法を聞く者が、神の前に義なるものではなく、律法を行う者が、義とされるからである。」(ローマ書 2:13)

「わたしのもとにきて、わたしの言葉を聞いて行う者が……」(ルカ 6:47)

これらは皆そのすすめである。

しかし、キリストがご自身で教会を御建てになったことから考えると、それはどうしても自由に取捨選択できることではなく、絶対必要なことがわかる。イエスの生活と御業は、模範を垂れることであった。その打ち建て給うたことは、従うべしとのすすめと共に与えられている。

イエス・キリスト教会は、イエスの時代と同様、今日でも人々の生活にとって、単なる消極的な関心や信仰告白としてではなく、積極的に責任を負うということにおいて、必要なものである。このようにして、教会は人を孤独の暗闇から救い出し、信仰は、聖典のすすめのごとく、行いに変えられる福音の光へと導く。これこそ個人の、家族の、教会の、そして、地上の諸国民の希望である。

キリストがこの世にいらした時に御自ら打ち建てられ、その後、暗黒時代に失われた教会が今やこの世に回復された。すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会がそれであり、神の御名によって行う力と権能が再び人間に与えられたということ宣言を伝えるため、現在一万三千人の青年男女が伝道の業についている。私もこれに証詞をつけ加えたい。私が知ること、神は実在し給い、その御子イエスはキリストにして世の救い主たることである。願わくば私たち各自が教会に活発に加わって、み言葉を行う者となるよう、イエス・キリストの御名により、遜って祈り奉る。アーメン。

卓 越

の む く い

ジェームズ T. デューク

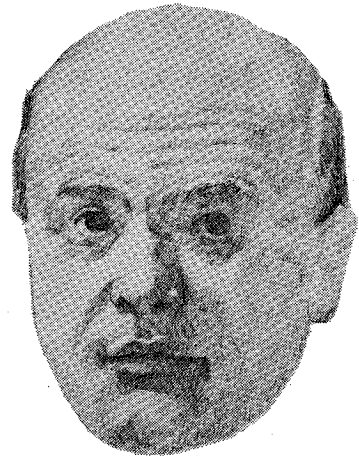


わんきょくないいまわしのこともあるが、よく「一体何のためになるんだろう」という言葉を聞く。人は物事を始める前に、まずその意義を、利益を知りたがり、そして実を結ばない無益な行ないに時を浪費してはいないかと確かめたいがる。

時には利益を強調する余り、視野がせばまることとなる。具体的、経済的利益に目を向ける余り、幸福感とか、達成感のような抽象的ではあるが、やはり大切なむくいを見落す傾向がある。しかも利益をうけても、なお幸福はないことを知ることもしばしばである。

われわれに大いなる遺産をのこした古代ギリシャ人は、物事はすべて完成、卓越の域に達し得るものとした。すべての物体あるいは人間は、この卓越という機能を持つものとした。すなわち、眼のそれは見ることであり、ナイフのそれは切れることであることなどであった。

これから、人間の卓越性に関する一つの道徳哲学が生まれた。人間の卓越は論理的思考ということにあった。この思考能力において、人間は他の動物とは異なるのである。



しかし、ギリシャ人は同時にまた個人差をも認めた。すべての人間には差異があり、かくして、各個人は思考能力の外に各自独得の卓越性を有する。そこで、人は、この他人と異なる自らの卓越性を求め、長所や徳を養わねばならない。

ギリシャ人の信条は、卓越性の追求は、それ自身のためであって、利益のためではないとした。到達すべき完成の境地がそれ自身のむくいであった。行動それ自身が目的であって、他の目的のための手段ではなかった。

この点は、今日の人間にとっても大きな意義を持つ。われわれの行動は、経済的社会的報酬のためではなく、その行動自身の楽しみや喜び、価値、周囲の者への益などのためで行わなければならない。神が次のようにいわれたのも、この故をもってである。「……人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。」

(教義と聖約 59:27)

人間の価値と完全の可能性はわれわれのうけつぐキリスト教の所産と一致する。キリストの教えは、人間の個人的成長と自己発達への努力を言い、人は、自らの才能、技能、徳を最大限に養い、自己表現、自己実現、創造性の目標に向わねばならない。隣人を愛し、自己の地位や名誉を考えずに尽すべきである。喜びは行なうことにあり、所有することにあるのではない。

さて問題はこの原則の日常生活への応用である。いくつかの場合を挙げてその応用を考えてみよう。

職業 卓越の原則によると人の求める職業は自らの才能、能力を發揮させる職業、金銭的報酬を抜きにして楽しめる職業でなければならない。うんざりするようなくり返しや緊張圧迫を伴う職業もあり、また自らの才能を發揮する職業を得るに必要な訓練をうけていないこともしばしばである。

しかし、卓越の原則はまた職業観をも変える。自分の仕事に価値ある有用な面を見出し、それに焦点を合わせるべきであり、また最善の仕事をなすべきである。その結果仕事はもっと楽しくなり、かつ有益なものとなるであろう。

家事 五十年、百年以前と比べて、婦人の役割は大いに変わってきた。教育程度は高くなり、社会的関心は増し、地域社会、教会活動は大いに活発となった。しかし、自分の家庭にしばりつけられている余り社会的関心を發揮する場のなさをかこつこともある。

そこで再び卓越の原則を応用して、見方を変え、自分の仕事を立派に果し、そこに喜びを見出し、それを有益かつ楽

しいものとする事ができる。自分と家族の生活とに喜び満足、創造性をもたらして豊かにすることができるであろう。

家族関係 男女交際にあたって、男子は美人の相手をえらぶのは、自分をよくみせたいからでもであろうし、女性が大事なダンスパーティーに出たい余り、好きでもない相手と連れ立って行くこともある。また時に断る理由としては、相手の容ぼうとか、車が古いとか、踊りが下手とかいろいろあるだろう。このような場合、問題は、他人との交りの内面的な喜びよりも外的な長所が重んぜられていることである。しかし結局人は最愛の人を知り、その人と共にいるだけでも幸福だということをとる。この関係はそれ自身に価値があるのである。共にいることは、目的のための手段ではなく、それこそ目的そのものである。

結婚は、上手な料理人や、経済的保障のためではない。もう一人の者と生活を共にしようとする欲求からである。

愛は、他人に施す助力や愛の報酬を求めるのではなく、人間の本質的価値や自らのもつ行動に基いて、他人と行ないを共にすることも含むのである。

教会活動 時々人は教会内の地位の報酬の故にその地位を求めがちである。すなわち、人に「見られたい」と思う。友人たちの前で誇りたがる。遜るとか、人の僕になるどころか、謙遜と靈性のいつわりの仮面をかぶりがちである。

卓越の原則に照らして、われわれの教会活動の動機をここで反省してみよう。日曜学校や初等協会の教師の仕事や系図委員会、定員会の会長会の責任などを心から楽しんでいるのだろうか。または人に見られるためとか、責任を持っていないければよく思われたいからとかの理由ではないだろうか。奉仕よりも報酬に心は向いていないだろうか。もしそうならばわれわれは心して自分の動機をふりかえり、召しの更に高い価値ある面に目を向けねばならない。利益の故にではなく、永遠の価値の故にわれわれの教会活動はあるのである。

人生すべてにわたって、職業、家族関係、対人関係、教会活動などにおいて、価値ある特質を追求し、人生の意義ある目標と洞察力をして導きたらしめねばならない。その時にこそ、卓越は理想となる、すなわちリビングストンのいう「人をして、結果や偶発的な利益の故でなくして、善それ自身のために善を望ましめ、金銭、地位、権力などの低き理想を去りて、人間性の可能なる限り最高のもののみ満足せしめる」理想となるのである。

若人に告ぐ

克己

管理監督

ジョン H. バンデンバーグ



毎 年何千という人々が、自分の肉体が癌に冒されて、余命いくばくもないのを知り衝撃をうけている。今日癌ほど恐い病気はまたとない。癌細胞は人間にとって何の役にも立たず、その繁殖力には恐るべきものがある。それを抑えることができるようになるまで、年々多数の人命を癌が奪って行くのは、実にこのいかんともしがたい繁殖力なのである。いつか、これは解決されるだろうし、その結果人命も救われるだろう。この希望の故に、その時を早めようとして、巨額の金と多くの時間が注ぎ込まれているのである。

しかし、このような努力のさなかにあってもっと恐い癌、魂の癌をはびこらせる人がこの社会にいるのである。これら専制君主を自任する者は人間の情慾の解放を要求し、情慾のままにふけるのは自然であり、かつ当然であると公言する。麻薬類、酒、いかがわしい読物、背徳等々そのすすめるものは数限りがない。

この悪魔の教えに心をとらえられる者が若人の間に殊の外多い。この肉慾が、やがて魂そのものを食いつくさずにはおかない癌を発達させていることに気がつかない。これらのいわば死の商人たちは人間の悪化に対する最大の防備のみならず、進歩の最大の鍵、すなわち自制力をも奪っているのである。調教を経た馬に値が出てくるように、人間も自己の欲望を制御する時に進歩はより大きくなる。

これらの人々は肉慾を宣伝するだけではなく、自制克己は喜びを失わせることになると宣べている。これははなはだしい偽りであり、福音と進歩の精神に反する。ウォルター・スコットはこれに対して「克己を教え、それを喜びとせよ、さらば、いかなる人の夢想だにせぬ高貴なる運命は開かるべし。」と述べている。スコットの言葉のように、肉慾を制することを知らる者には、大いなる力が得られる。情慾への叫びに反して、克己は進歩と喜びへの鍵である。テニソンは、「ガラハド」の中で、「わが心清けれ

ばわが力十人に当る。」と言っている。

教会の青年男女がしばし、特に克己の意味を考えるのもよいことであろう。克己によって、人はたやすく怒りをうつさず、邪しき思いにかられず、自己満足に溺れず、情慾のとりことならないのである。

マッケイ大管長は克己を福音の中心目的の一つとされる。「福音とは何か？ それを有する意義は？ その目的は？ パウロは『福音とは救いに到る神の力なればなり』と述べているが、何からの救いか、世は何よりの救いを求めるか。」と自問自答しておられる。「世に必要な救いは、一つにはまず動物的本能、情慾、肉慾のひろい影響力からの救いである」(Treasure of Life「人生の宝」p. 438)

克己は、ここで人生目的の中心とされている。また、主の誠命は特にこの動物的本能からの救いを目的としていることがわかるであろう。

「汝……愛すべし」という神のみ言葉は、そしりや怒りの苦しみ、不幸をさけるためのものであるし、正直と、他人の美点をみる気持によって、動物的欲望の充足をさけることができる。(同書 p. 439) 知恵の言葉を行えば欲望の絆を破れるし、清らかな思い、純潔な行いはいやしい情慾を制するものである。このようにして、永遠の結婚という最高の関係を持つ資格を得、それを行うことができるのである。

ミルトンは、克己について考えを述べている。「自己の内なる情慾と欲望と恐怖とを制する者は、げに王者にも優るなり。」と。

このことの真理は、歴史を一べつすれば足りる。克己の重要性は、ごく明確に裏付けされているからである。

モーサヤ王の子アンモンは、王位継承者であったが、レーマン人への伝道のため、その身分をすてた。彼は戦いにおいてはおそるべき勇者であり、主の羊を守り、敵の腕を切り落した話は、その力と勇気とをよく物語っている。アンモンは欲望と誇りを制することを知っていた。その業はただ主の御業のためであった。何千という人々に真理を知らしめ、大いに尊敬をうけた。克己の故に彼は最高の喜び、王者にまさる喜びを得たのであった。その喜びは次の如く述べられている。

「私は自分が取るに足らないものであることを知

っている。私の能力は弱い。それであるから、私は自分のことを誇らないでただ私の神のことを誇る。それは神のたもう能力によって何事もすることができからである。ごらん、私たちはこの土地で多くの奇蹟を行ったが、私たちはとこしえに神の御名にこの誉を帰して讚美する。ごらん、神が地獄の苦痛から救い出したもうた私たちの同胞は、何千人という数ではないか。これらの者は贖いを与う御方の愛について讚美の歌を唱うようになった。これはひとえに私たちの中にある神の御言葉の力によるのである。それであるから、私たちはおおいに喜び楽しまなくてはならぬのではないか。まことに神はいと高き神にましまして、私たちの同胞を地獄の鎖から解き放して下さったのであるから、私たちはとこしえに神を讚美しなければならない。

今私たちは本当に喜ぶべきではないか。およそ世界始ってこのかた、私たちほど喜ばねばならぬわけのある者はない。私は喜びが溢れて私の神に喜びを感じなくなった。神はことごとく的能力と、ことごとくの智恵とことごとくの知識とを具え、一切のことを悟り、憐み深くましまして、およそ悔い改めてその御名を信ずる者はみなこれを救いたもう。」(アルマ26：12—14, 35)

歴史は同じ側に満ちているが、ここではただダビデのことにふれるだけでよいであろう。ダビデはその放縦な欲望の故に恵みの座から落ちた。それは、欲望を制した古えのヨセフと好対照であって、自制のもたらす幸福のよい証である。

教会の若人たちよ、世界が求めているのは克己の人々であり、現代はかつてなかった程その力を必要としている。

ここで心に留めるべきは、人は情慾にほしいままにふけるようになると、社会にとっても、神にとっても、役に立たない人間となるということである。真に、放縦に流れる人間は奴隷である。ロバート・バートンは、「汝自身を制せよ。かくするまでは奴隷に過ぎず、自らの欲望に属するは、他人の欲望に屈するに等しければなり。」といている。

世界が何をほめそやそうと、人間の価値、あなた方のそして私共の価値は、自制と克己に存するのである。



大いなる模範者 母なるイブ

十二使徒評議員

マリオン G. ロムニー長老

今 この話をするよう扶助協会会長に頼まれたことは大きな名誉であると共に、大きな責任でもあります。特に題は指定されませんでした。教会内外の婦人にとって有益なことをということでもあります。

そこで、聖典に現れている母なるイブの五つの偉大な特質を申し上げてみることに致しました。

イブがこの世最初の婦人であり、人類の母であることはご存じの通りであります。そこで私は、イブが扶助協会員と同じく、すべての婦人が見ならうべき正しい生き方の模範をなした偉大な徳高き婦人であったことをお話ししたいと思います。

私がここで列挙する彼女の美点は、

1. 夫と労苦を共にしたこと
2. 子孫を殖し地を満す使命を果たしたこと
3. 夫と共に祈ったこと
4. 福音を学び、理解し、感謝したこと
5. 夫と共に子供に福音を教えたこと

です。

この世の人間としてのイブを最初に述べているのは、高価なる真珠、モーセの書5章1節です。

「われ主なる神アダムとイブを追い出してより、アダムは先にわれ主の命じたりし如く、土地を耕しすべての野の獣を

治め、彼の額の汗によりて食物を食うことを始めたり。而して、妻なるイブもまことに彼と共に働きたり」（モーセの書5：1）

次のような主なる神の言葉の意味を二人が悟った時、夫と共にする労苦はどうしても必要となったのでした。

「……地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ……あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る。」（創世記3：17～19）

雄々しい孤独な生活のたたかいの中でこの立派な婦人は夫と苦勞を共にしたのでありますが、この共にしたということに特別な意味があります。それは肉体的苦勞以上に、共通の目的、理解、協力、愛を意味しております。夫と苦勞を共にして、彼女は後世の婦人たちが仰ぐべき模範をうち立てました。

以来、妻の苦勞の性格は変わってはきましたが、夫婦の本質的な関係は変わりませんでした。やむを得ず家を離れて妻が働かねばならぬ場合も、それは独立して、または夫に背いて働くべきではありません。「妻なるイブもまことに彼と共に働きたり」という事の意味を、扶助協会員たる末日聖徒の婦人はよくかみしめて、自分もその徳を養って頂きたい。末日聖徒の家庭にあっては、夫と妻は一つであります。パウロは言っております。

「主にあっては、男なしには女はないし女なしには男はない。」（Iコリント 11：11）

さて、その次に書かれてあることは、彼女が母としての責任を受けたことでもあります。

「アダムその妻を知りて、妻アダムの息子娘らを生み、その子供たち殖えて地を満し始めけり」（モーセの書 5：2）

後にカインとアベルが生まれました。（モーセの書 5：16-17）また、セツと多くの子供たちも生まれました。アダムはセツの誕生の後百年生きて、息子娘らを生めりと聖典にあります（モーセの書 6：10-11）

神から与えられた子供を生むイブの、そして婦人たちの責任を、今日軽んずる人が多くあります。今日の不潔な社会は一方では不貞やその他の不徳な行いをゆるしてすすめ、他方では墮胎を合法化し、人口調節をすすめ、あるいは実施し生命の機能を墮落させています。これらの動きを阻まぬ限り、ソドムとゴモラの墮落が、同じ悲劇的結末を幾度もくり返すことであらうでしょう。

主は幾度も、このようなにくむべきことをお責めになりました。十戒で、山上の垂訓で、パレスチナで、また後にニーファイの民にも仰せになりました。またこの現代の福音時代の初めにも言われました。

教義と聖約の59章の中で、「汝盗むなかれ、また姦淫を犯すなかれ、また人を殺すなかれ」と言われてから、「また何事にてこれに類することを為すなかれ」と意味深い一句を加えておられます。これに類するものとは、聖句の中にはつきりとは示されてはいませんが、文脈から考えて、自発的墮胎なども含まれるでありましょう。末日聖徒の女性はこれらの憎むべき風習に対して、断固と立ち向わねばなりません。

扶助協会員は母イブと同じく、「生めよ殖えよ、地に満ちよ」の責任を持っています。イブがどのようにして神の誠命に従ったかをみて、自分たちも光栄への確実な道を見出せます。

さて、第三の点はイブが夫と共に神に祈ったことです。

「アダムとその妻イブ主の御名を呼びたるにエデンの園を指して行く途のかなたより声聞えて彼らに語り給えるが、その御顔は見えざりき。」(モーセの書 5:4)

これはこの世の人間の祈りの初めての聖典記録であります。それはありきたりの状況の下でのありきたりの祈りではありませんでした。

エデンの園からの追放と共に彼らアダムとイブは神の御前から追放されたのです。苦しみと労苦と悲しみによって彼らは自身と子供たちの生活の糧をようやく得たのであります。現世の目的も永遠の生命の計画も知らず、家族を育てる諸問題にとりくんだのであります。

おそらくは、困難と絶望の余り、エデンの園での神との交りを思い出して、神を呼び求めたのでありましょう。これは大きな決定でありました。というのは、祈りは必要であったばかりではなく、しかもその必要を彼らは、知らなかったのですが、福音の知識と理解にとって、欠くべからざるものであります。

祈りを共にすることは、今日永遠の道を家族と共に歩む夫婦にとって絶対に必要であります。賢妻たる婦人は、毎日の家族の祈りを高めるように家をととのえるでありましょう。夫や家族と共にひざまずき、主を呼び求める時、イブの模範だけでなく、夫に善き業を勧めよとのジョセフ・スミスの教えにも従うことになるのです。事実家族の祈りは、永遠の生命に向い家族の歩みをすすめるものであります。

アダムとイブの祈りに応えて、主は誠命を二つ与えました。曰く、「主なる汝らの神を礼拝し、(人間に与えられた最初の祈りの誠命)主に供物としてその羊の群の中の初子を捧ぐべし。」(モーセの書 5:5)

これらの誠命に従って、イブは福音の真理に対して、強い霊的、精神的理解力を示しました。アダムは主の誠命に従いました。

「多くの日を経て、主の天使一人アダムに現われて言いけ

るは、汝何故に主に犠牲を捧ぐるやと、アダム彼に言いけるは、われその故を知らず、ただ主の誠命に従うのみ。

(モーセの書 5:6)

そして天使はアダムに福音を教え始め、アダムが供える犠牲はイエスが時の絶頂に捧げられる犠牲のひながたであり、イエスは、天父の独り子であると告げました。

天使だけではなく、聖霊も、そして、神御自らの御声も彼らを教えました。前世、地球の創造、(アダム自ら加わったのであるが、忘れてしまっていた)、墮落、現世の理由、キリストの使命、福音の全計画、イエス・キリストへの信仰、悔改め、罪のゆるしを受けるための水のバプテスマ、聖霊の賜物を受けるための火のバプテスマ、復活、不死不滅と永遠の生命、これらのことを教わったのでした。

「而して主、われらの父なるアダムと語り終え給いし時、アダム主に向いて呼ばわりたるに、主のみたまによりとらえられ行きて水の中に引き込まれ、水中に沈められて、また水の中より引き出されたり。かくの如くアダムはバプテスマを受け、神のみたま彼に下れり。かくして彼はみたまによりて生れ、内なる人に於て生かされたり。而してアダム天より語る声を聞けり、曰く、見よ汝はわれにありてひとつなり。神の子の一人なり。かくの如く一切の者はわが子らとなるを得ん。」(モーセの書 6:64-66, 68)

この福音の計画はアダムにとって大きな知らせであり、人間がこの現世から神の御前に戻る道を示したのであります。

「その日、アダム神を讃めてみたまに満たされ、この世にあるすべての眷族に就き予言し始めて言いけるは、神の御名は讃むべきかな。われ罪を犯せし故にわが眼は開けたり。われこの世に生きて悦びを受け、われまた再び肉体に在りて神を見ん。」(モーセの書 5:10)

さてイブの方はどうだったでしょう？

「彼の妻イブ、すべてこれらのことを聞き喜びて言いけるは、もしわれら罪を犯さざりせば、われら子孫を得ざりしならん。また善悪の区別も知らず、われらの贖わるる喜びも知らず、すべて従順なる者に神の賜わる永遠の生命も知らざりしならん、と。」(モーセの書 5:11)

婦人の言葉はむだが多いと人はよく言いますが、聖典の中のこのイブの短い言葉程、内容と理解と知恵に満ちたものを知りません。天と交った夫が受けた啓示をイブがどんなに理解し、受け入れ、感謝したか、彼女の偉大な精神と、気高い性格と、霊的な魂はその現れであります。

夫のうけた啓示を妻が受け入れるのは必ずしも容易ではありませんでした。サライアはリーハイに不平を言いました。

「父は幻に耽る人だと言ひ、『ごらん、あなたは私たちを

先祖から受け嗣いだ土地からつれ出して来たので息子たちは死んでしまった。私たちが荒野で死んでしまう。」(I ニーフアイ 5:2)

予言者ヨセフの妻も同様でした。ある婦人方も御主人が教会にいつも行きすぎると不平をお持ちであります。

アダムとイブが福音のよきおとずれを聞いて味わった喜びと幸福は仲々完全には理解しがたいものであります。

エデンの園を去って久しく、二人は試行錯誤で困難しつつ物事を学びました。その苦しみの中にあっては、未だ救いの計画も自分たちのとった行動の意義も知らない故に、イブは自らが招いたエデンの園からの追放を悔んだことであらう。それだけに福音が次々と啓示されるに従って彼女は心をこめて聞き、応え、理解し、信じ、そして喜びを得たことであらう。精神はそれを把握し、霊は高く天にも昇る心地でありました。平安と歓喜の中で、その霊の感じを次のように言っています。

「……われら罪を犯さざりせば、われら子孫を得ざりしならん。また善悪の区別も知らず、われらの贖わるる喜びも知らず、すべて従順なる者に神の賜わる永遠の生命も知らざりしならん。」(モーセの書 5:11)

イブのように福音を学び理解し、感謝できる婦人の夫や子供は幸せであります。イブはこの点で最大の模範でした。

同じ彼女の模範がもう一つあります。夫と共に子供に福音を教えたことです。

主はアダムに福音を啓示して申しました。

「彼ら(汝が子等)成長し始むるや、その心に罪を宿す。而して善きことを賞美するを知らんがために、苦きことを味うなり。而して彼ら善悪を区別する力与えらる。然るが故に彼等は自由意志を持つものなり。(必ずしもそれを制御でき

ないが、教えることはできる)さればわれ汝らに今一つの誠命を与えたり。」(モーセの書 6:55-56)

そのもう一つの誠命とは悔改めとゆるしでありました。

「この故に汝らの子らに教えよ。すなわちすべての人は何所にあるもことごとく悔い改めざるべからず。然らざれば彼ら決して神の王国を嗣ぐ能わず、汚れたる者は王国に住むこと能わず故にわれ汝らに一つの誠命を与えてこれらのことを汝らの子らに自由に教えしむ。

アダムとイブとは神の御名を讃め、息子娘らにすべてのことを知らしめたり。」(モーセの書 6:57-58, 5:12)

今日、神はすべての両親たちにアダムとイブのこの模範に従うようにすすめています。1831年11月に主は言われています。

「またシオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。

およそシオン、又はその組織されたるステーキ部内に住める者の律法かくの如く。また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約 68:25, 26, 28)

さて終わりに申し上げますが、将来、あなた方が、母イブに思いをはせ、その夫への協力、地を満たす使命の達成、福音の勉強と理解、子供への福音の教えなどを憶え、そして、その模範に従って下さいますならば、この話をした甲斐があったと存じます。

神の祝福をイエス・キリストの御名により、お祈り致します。 アーメン

お 料 理 メ モ

フロレンス B. ピノック

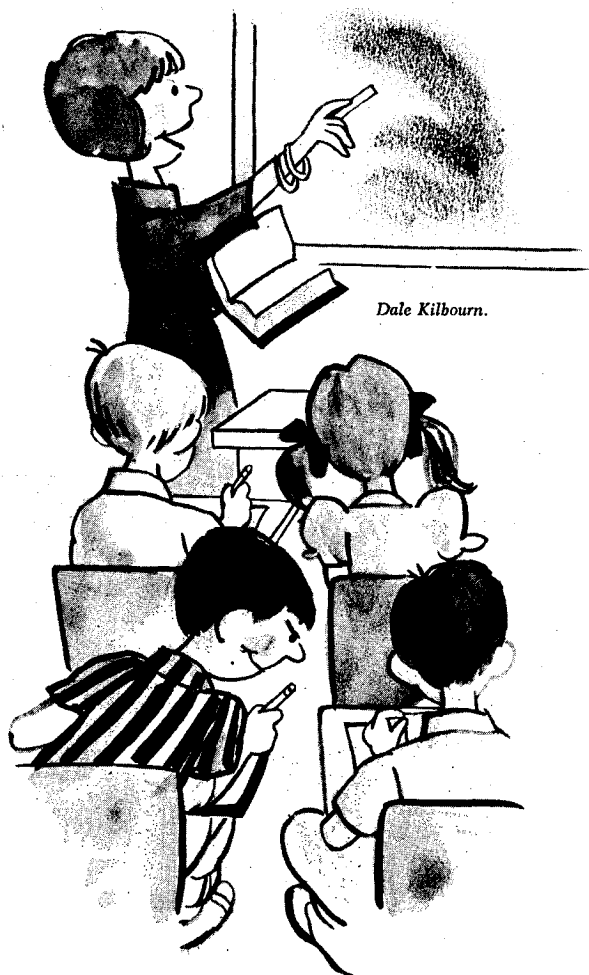
最 近の料理の本は、酒類の使用を多く必要としているので、困るという声をよく耳にします。よい献立はぜひ利用して見たいものなのですが、あいにく酒類は全然家に置いていないので、代りとして何を用いるか考えられることがあるでしょう。それで少しヒントをさしあげます。

酒類を調理に用いるには三つの理由があります。第1は風味をつけること。第2は肉を柔らかくするため、第3はケーキやクッキーにしめり気を与えるためです。風味はびん入りの香料で間に合います。マリネードにつけて肉を柔らかくするのはちょっとやっかいです。その働きをするのはアルコール中の酸ですので、リンゴサイダー(リンゴの果汁からつくる)レモンジュース、酢などを代用することができます。白グレープジュースも結構です。

甘味のないブドウ酒の使用を要する時は、甘味のないもので代用しなければなりません。エビの汁をこのために使う人もいます。オレンジジュース、グレープジュースのような果汁は、フルーツケーキ、クッキー、デザート類に用いるブドウ酒の代りになります。色のこい、味の濃厚なフルーツケーキにしめり気をつける時は、色のこいグレープジュースに布巾を浸して、それで包んで下さい。白色のフルーツケーキの場合は、白グレープジュースが適しています。

白グレープジュースはまた、フルーツカクテルに注ぎかけても結構です。リンゴサイダーは、チーズフォンデュのためのビールやブドウ酒の代りとなりますし、コンソメやブイヨンで代用できる料理もあります。これらにレモンジュースを加えると風味が一層ひきたち、塩気をとります。

日曜学校



「君たちがこの試験の間不正行為をしないように見張っています」そして「君達の正直に期待して監督はしないことにしましょう」この二つの教師の言葉のどちらに望ましい反応が起るか。

「坊や、夜一人ぼっちなのは今夜初めてだけど、こわがってはいけないよ。」「明日までの宿題は次の章を読むことです。お願いだからやってきてくれるね。」

親や教師としてしばしば暗示の力を低く見がちである。するなといえぱきっとする人が時々いるものである。こわがらないでと子供に言った母親は、実は自分ならこわがるだろうと暗示しているのであり、言われた子は、母のその「期待」を知るまで、こわがるなどと考えもしないのである。

あるセミナーの教師は、なぜ皆が遅刻するのか、わからなかった。慎重に分析して考えてみると、自分が暗に期待していることに思いついた。またある日曜学校の教師はなぜ男の子たちは女の子のように

あなたの期待は？

ミルフォード C. コットレル

静かに教室に入ってきて席に座ることができないのかと思っていた。だがこれも後に女の子も男の子もそれぞれ自分が期待される通りに行動していたということがわかった。

このような例で、われわれの期待が、時によくない行動を誘発することがわかる。

積極的な期待と行動に同様な影響を及ぼす。ある

大人となった若者が父親に話していた。「僕たちが聖餐式に行ったのは、お父さん、お母さんの期待があったからです。」

たとえ、直接口に出して言わなくとも、その期待は子供たちが感じ、応えたのであった。

いつも神権会に出席する父を持つ息子の場合、12才に近づくに従って、父や監督が、神権に伴う期待を話してやる。執事になって最初の日曜日、父は、「時間だよ」と云ってやり、これがいつも続く。息子は父の期待を感じ、責任を進んでうけるようになる。（やがて、自分が目覚しをかけておくようになり、父がうっかり寝すごすと、神権会に行かないのなどと聞いたりする。）

ステーキ部監督会議の席上、ある監督が、聞かれた。「君の所では、補助組織の責任に召された人々は実によくやっているけど、その秘訣は何だね。」と。その答は、監督会が面接の際、必ず、召を受けた者に対する自分たちの期待の気持ちを伝えるのであると云った。その当人及び能力に対する信頼を表明すると共に、その期待が果されない時は、他の人をその仕事につけたいと云うのであった。他の監督たちも認めたのであるが、人を召す時、「あまり時間はかかりませんから」としばしば言うことがある。その結果として、多くの人々は時間をその仕事に注ぎこもうとはしないのである。

ある親たちは「伝道資金」と称する貯金を子供の名で積み立てている。その理由は二つある。一つはその時々になっての経済的負担の軽減であることが明らかである。第二の理由はそれ程明らかではないがそれは子供たちが幼少の時から伝道に行くことを期待されているという気持ちをもたせるためである。その期待の故に、また自分自身、福音を学び誠命に従うことによって準備をする期待がある。このようにして育った人は伝道をすすんで受け入れ、十分な準備の故に、すぐれた宣教師となるのである。

ある西部の大学で、一人の教師が最終試験の時、不正行為を「予期」していることを示した。机の上に立って、受験中の学生をよく見張った。あんのじょう、学生たちはその予期に応じて、彼の目前で、工夫した種々の方法で相互援助を図ったのであった。

ブリガム・ヤング大学では、試験中、教師は説明などで必要な時以外、教室にはいない。故に BYU では不正行為の率が目立って低いのも故あることである。学生たちが期待に応えるその結果なのであろう。

立派な教師たちはこの期待する気持ちを学生に伝える方法をいろいろ考えて成功を収めてきた。例えばある問題行為の生徒の処理であるが、教室に授業後数分残ってくれと云い、それから、その行いが教室では望ましくないと告げて、直す方法を二三、例えば教師が親、監督、日曜学校会長と話し合うとか、を云ってみる。それから生徒自身の考えを聞くと、おそらく自分が行いを変えると云い出すだろう。もし自分から云い出さなければ、教師の方で云って、いろいろ書き出し、どれをとるか尋ねてみる。通常、自分の行いを改めるようにするものである。そういう時、それが一番良いと云ってやることであるが、もしそれがだめなら、他の道をとらねばならないことをはっきりさせておく必要がある。

このようにして問題を処理して、生徒が教師との間に、互いに何を期待し得るかを知らせることが大切である。ただし、注意を一言、とことんまでやる気がないのなら、こうすればこうするぞとおどしたり、または約束をしないことである。生徒も当然教師の行いに期待するので、教師が本気で言うのであれば、困難を生ずるのである。

人に自分の期待通りの人間であるように接してやること、そうすれば、必ず期待に応えるものである。

8 月 の 聖 句

大人の日曜学校

またパンを取り感謝してこれをさき弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」

(ルカ 22:19)

子供の日曜学校

イエスは言われた、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」(マタイ 22:37)

聖餐会の前奏曲

DELMAR H. DICKSON



忠実なる信仰

私は父の教訓を決して忘れない。ある日われわれ子供たちは乾草の畝で働いていた。乾草を九回馬車で納屋に運んでから、十回目を同じように運ぼうと畝に戻った時父が言った。「もっと北の方へ行きなさい。その草の方がよいから。」私は言った「こちらから順番にとって行けばいいでしょう」その方がよいと思ったのであった。

どっちにしても野草なのでたいしたことではないだろうと。

「いや、チモシー（優良な牧草）が草々に混じっている北の方へ行きなさい。これは什分の一の分なんだよ。」

「でも一番良いのでなくてもいいんでしょう。」

「一番良いのでも神様に上等すぎることはないんだよ。」

これは今まで聞いたどんな什分の一の説教にもまさった教えだった。乾草の価はわずかではあったが、父の精神がわれわれに与えた影響は大なるものがあった。

デビッド O. マッケイ大管長

(True to the Faith p. 115-116)

報 わ れ た ク ロ ー ビ ス 支 部 の 信 仰

バージル N. コバレンコ

西 部諸州伝道部のクロービス支部のゲーリーB. ランドバーク支部長がある日曜の朝、神権会に一つの問題を出したのである。

「兄弟達よ」彼は言った。「今困った問題があります。当教会堂の第二期工事が始って数ヶ月になりますが、神権会の皆さんからは、お願いした協力を快く頂いて来ました。ところで、建築宣教師は転勤し、建築監督も解任された今、まだ 2000 平方メートル余りの芝生を植えねばならず、そのために、その全面積を耕さねばなりません。毎週末、男手を教会堂にとられるのはどんなに各家庭にさしつかえるかよく判りますが、しかし、献堂式に間に合わせるには、一体どうしたらよいか。正直なところちょっと判りません。何かよい考えはないでしょうか。」

部屋中の兄弟たちは黙って座って、建築に奉仕して家を空けた時間を数え、また一方、教会堂完成の強い望みをも考えた。いろいろ意見や提案が出され、徹底的に討議がされた結果、次の土曜日一日中を神権会全体の仕事会とする案にきまった。しかしその日はあいにくと軍隊記念日で、多くの会員たちは近くの空軍基地に勤めなければならなかった。これをある会員たちが述べた時、第二副支部長が立って言った。「一週間建築を休みにして、各家庭でみんな週末をゆっくり過して、翌週仕事会をしたらどうでしょう。」その翌週は戦没将兵記念日があるので週末には休日が三日つづくし、その方が仕事の計画には好都合ではないだろうかという案であった。

種々の案を討議してから、ランドバーク支部長は言った。「これを神権会ばかりではなく支部全体への正式な動議としよう。家族仕事会の日として建築資金食事会も兼ねよう。姉妹たちには食事の用意をお願いし、駐車場に食卓をおきましょう。」

支部長は続けて、全支部会員に5月27日の金曜日

・・・あたかも警告のように一陣の風が起り、時の迫っているのを告げた・・・

の朝食時から5月27日土曜日の朝食まで断食と祈りをするようにお願いをした。このことは神権会と聖餐式の両方で満場一致で受け入れられた。

ところが、支部の問題は増加する一方だった。天候の問題であった。ここはニューメキシコ州東部でいつも風が烈しく、時には風速毎時88kmにも達することがあった。こんな悪条件下では、小さな土地でも肥料や種子をまくことは不可能であり、まして2000平方メートルとなると全くこれはできない相談であった。何週間も雨一滴もなく、土の表面は風と日光とで、かんかんに乾いていた。

支部会員たちの祈りには真剣な雨乞の祈りもこめられたが、同時に土曜日の快適な仕事日の条件も祈られたのであった。

仕事会の前の水曜日は、空は晴れ渡り、雲一つ見えなかった。二人の兄弟たちが、午後と夕方水をまこうとしていた。ところが程なく空を黒雲がおおい始め、雷が一しきり鳴つたと思う間もなく、猛烈な雨が降って来た。その夜もそして木曜日の昼夜雨は降り続き、金曜日の午前は更に烈しくなる見込であった。

ランドバーグ支部長が金曜日の朝仕事に出る時、暗い雲におおわれた空を見上げて祈った。「ありがたいことに雨はもう十分頂きました。草を植えてしまふまで雨はけっこうでございます。金曜日は今までの雨が地面にしみ通る日として下さい。」その日の午後と夕方、電光が地平線から地平線へとひらめき、そしてクロービスの雨は止んでいた。風が出てきて、高温と風がたまっている水をあらかた蒸発させていた。その夜、クロービス支部の多くの会員たちが感謝の祈りと共に土曜日の好天を祈ったのであった。

土曜日の朝5時半兄弟たちが数人くわや熊手など

道具をもって教会へやって来た。太陽はもう昇りかけ、風は止んでいた。それから会員たちが続々とやって来た。やがて仕事が始められ、子供たちも雑草や石ころや屑を運んだ。トラクターがプラウをひき、一輪手車などが忙しく行き交った。姉妹たちも食事会の準備に忙しかった。正午になった時、ランドバーグ支部長は子供の日曜学校教室に集合を頼み、そこで彼はこの自然の力の不思議な常ならぬ働きを一つずつ語ったのであった。それから皆はひざまずいて感謝の祈りをしましょうという支部長の声に、150人以上の会員がへり下って感謝の祈りに心を一つにしてひざまずいたのであった。

これ程支部の食事会がおいしかったことはなかった。食後また皆は仕事に戻り、そして当然の事だがお昼ののんびりしたくつろぎで、仕事の調子が落ちてきた。その時、あたかも警告のように一陣の風が起り、時の迫っているのを告げた。言い合せたように、皆が空を仰ぐと、再び黒雲がかけり始めていた。あとは、少しばかり種子をまいて肥料をやり、熊手でならしてローラーでおさえるだけだった。それも速かに片ずき、構内も建物もきれいに掃除がすみ、仕事会は終わった。

その夕方バプテスマの会の予定であった。日中奉仕してくれた二人の軍人が教会に入るのであった。その会の進行中、風が吹き出し雨が降ってきた。

後になって教会堂の近くの会員たちは、あんな変わった雨はクロービスでは初めてだったといった。雨雲は教会堂の地区にのみ垂れこめて、雨は聖徒たちの努力を最後に祝福しているかのようであった。そして、町の反対側の会員たちは一滴も雨がなかったと言った。

その四ヶ月後、1966年9月、西部諸州伝道部バール F. スコット伝道部長がクロービス支部を会場として開かれた地方部大会で献堂の祈りを捧げた時支部の会員たちの夢と祈りは遂に豊かに実ったのであった。

からっぽ

の本立

フロレンス B ピノック



粉のふり粉もない、インクのないペン、まきのない暖炉からっぽの本立、どれも無用の長物である。つまらないものしかのっていない書棚ならともかく、ぼつんとからっぽの本立程わびしい光景はないものである。

例え持主をよく知らなくても、どこかの家の中に入って立派な蔵書が各室に満ちているのを見れば、その持主のような友を持ちたいと願うことであろう。家は使って初めて家庭となるのであり、そしてその一部は書籍が果すのである。台所の天火は人の飢を満たし、壁一杯に並んだ本は人の精神的要求を充すのである。

昔、ある少年がこう言った。「僕はいつか百万冊も本を持ちたいです。お父さんから初めていただいたものは本でした。僕が生まれてすぐお父さんは本を一冊買ってお母さんにおっしゃいました。『これはこの子の本だよ』」何というすばらしい贈物であろう。どこへでも、行きたいところへ、この本をつれてゆくことであろう。

親は子供の手をとって知識の源へと導かねばならない。親たる者は、子供たちを公共図書館へ連れて行ったことがある

だろうか。熱心にそうすれば、図書館の中での楽しみが習慣となるであろう。図書館の児童書の一門には独得の匂いがある。それはクリスマスの朝と誕生日が大好きな人々の入り混った匂いである。目を閉じるとその匂いがしのばれ、そしてまた、突然大人から、図書館の中に一人ぼっちで残されてお昼までそこに居なさいと云われた時の喜びを想像できるであろう。幾十列もの本を見渡して二三冊をえらび、低い机の小さな椅子の所へ行って、しばしこの世を忘れる。二三度は机の所にいる係の女の人を見ては、こんなにすてきな仕事がこの世の中で選べたとはと感心することであろう。その女の人も本が好きなのである。

本は生き物である。すなわち人間がそうするのである。本は愛の、まもりの、楽しみ、探究の、そして使い尽す対象である。本は子供たちに与えるすばらしい報酬となる。慎重に選んだ本は最も親しい贈りものとなる。

本の中には24金の貴重な宝がある。ページを一めくりすれば、ギリシャがあり、チリーがあり、アラスカがある。

本の中の世界で、自分は大科学者に、大芸術家に、大コック長に、大バレリーナに、大スキーヤーに、椅子に坐りながらにしてなれる。コロンブス、クック、バードたちと共に世界の探検ができる。2500年の未来に夢をはせ、著者と共に科学の驚異を味わえるし、また未来から離れて過去の歴史にわけ入り、物事の成り立ちを知ることでもできよう。読書は山の上からの眺めのようなものであり、本が連れて行ってくれる所はみな「現在」なのである。

本のページからは、夢や勇気や慰めが得られる。目が文字を追う時、考えることを学び、そこに書かれた思想を把握する。また鉛筆を手にして、内容に集中するのもよかるうし、興奮しては消ゴムをかみきることであろう。

読書は変化に富む友であり、他人の考えや行動を知ること、この移り変りの激しい世界に適応して行く助けとなる。またそれは、具体的選択のための知識を与える。正直な自分自身の意見を持つために、物事の一面のみにとらわれず、新しい考えを恐れてはならない。

勉強と読書は常に、「備え」させる。年をとる幸せな道であり、新鮮な考えが心の活動をいつも促し、思考力、推理力、学習能力を育てる。毎日の読書は人を安定させ、話題を与える。自分の持たぬものを人に与えられないものである。他人の考えを集めよ。読書家は与える者となり、興味深い、物しりの、そして人に刺戟を与える人物となるのである。



教会の若人のために

拝啓

大きな問題について御協力をお願いしたいと存じます。今まで伝道に出る事は生涯の望みでしたが、今私と恋人は結婚したいと思っております。私は大学一年に在学中です。

答 あなたに個人的な返事がもう行ったことでしょうか、ある宣教師が同じ問題に直面した弟に送った手紙があります。あなたも、他の人々もきっと読みたいことでしょう。よく読んで、よく考えて下さい。

親愛なるボブへ

助言を求める君の手紙だったが、相談にのれる資格がはくにあるかどうかは疑わしい。しかし、君の立場はよく判ると思う。「問題」といわずに「立場」と云ったが、その訳は、これは普通の意味での問題ではないからだ。問題に直面しているのは相手の女性であり、君の標準を受け入れるか否かの決断に迫られているからだ。

教会の標準は世界最高のものだ。真の教会だからである。両親から正しい教育を受けたぼくたちは正しいこと、誤ったことを知っている。さて、君は主が第一であり、伝道に出るのが正しいことだとこたえている。だから僕の見方は君には真の問題はない。

ところで君は今まで相手によく話をして、自分の教会の立場を説明しただろうか。まず自分が模範を示したまえ。

彼女に自分が伝道の準備をしていることを、2年ないし2年半留守にすることを打ちあけて、それから、彼女自身の決心にまかせたまえ。

正しいこと、まちがっていることのどちらかをとるという問題が来たのは君の祈りが答えられた結果だと思う。知恵を求めて祈る時、主は、克服すべき問題を与え給い、その結果人間は知恵を得る。伝道を犠牲にしてまで結婚するに値する女性はいないものだ。また、真に福音が判っている人ならそんなことはさせないだろう。もう少し先を考え自分でこれを自覚しているかどうか考えて見たらどうだろう。今は何故このような道の選び方をせねばならないか完全には判らないかも知れないが、いったん伝道に出てみれば、それがどんなにすばらしく大切なものがきつと判るだろう。

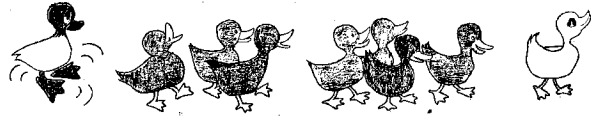
君と教会がこの女性にとってどんな意義をもっているか知ることだ。もし君に、主に仕える信仰があるなら二人にとって万事がうまくゆくということを見通し、理解するだけの力が彼女にあるであろうか。常に祈り、また母に相談したまえ。どんなに望みが暗く見えようとも、神の国を第一に求めるなら、万事道は開けるだろう。

もっと聞きたいことがあるなら、遠慮なく云ってほしい兄弟はそのためにいるんだからね。

愛をこめて

ポールより

デイビイ



ジェー・シー・デイーム

九羽のあひるが、くねくねした道を歩いて今日もおよぎに行くところでした。一羽は白、七羽はちゃ色、そしてデイビイはいつものとおり、いちばんビリでした。

白いあひるのドーラはしんじゅのような羽で、足はほっそりときん色でした。足の先はおひさまのようなみかん色で、ドーラはほんとうにきれいでした。ドーラはそれをよく知っていて、いつもせんとうを歩きました。

れつのさいごはデイビイで一人ぼっち、それはみんな足のせいでした。

ものすごく大きな足で、かえるの子ははすの葉とまちがえたくらいでした。うっかりこのなみはずれて大きな足をわすれた時、デイビイはよくひっくりかえっては、時々くちばしをどろの中につっこんだり、頭をけがしたりして、ちゃ色のあひるたちにげらげらわられるのでした。きどりやのドーラははなさきでフンとわらったりします。デイビイはそんなドーラにとでもはらがたちました。

この日はとてもよいお天気でした。おひさまはてりかがやき、鳥はさえずり、ちょうちょは花にとまっています。

しかしかわいそうなデイビイにはなにも見えませんでした。ただつまずいてころばないように気をつけて、一人でとぼとぼ歩いて行くのでした。こんどはころびませんでしたが、あまりゆっくりなので、ずっとみなからおくれてしまいました。みなはとくに池についていました。

ドーラはずーっと池に入り、まるでまっしろなヨットのように水の上をすべって行きました。そのうしろにちゃ色のあひるがちゃ色のボートのようにつづきました。デイビイは池につくなり、ぼしょんとつめた。い水におちてしまいました。

しっぽをもちあげ、頭を水につっこみ、デイビイはいい気持ちでほてった足をひやしました。足は水の中でだれにも見えないのですっかり喜びました。

ところが、その時なにか聞えました。大きなわぎになってあのきれいなドーラが羽をばたつかせては、ガーガーわめいていました。

そのまわりをちゃ色のあひるたちが、なにもしようとせずに、ただぐるぐるおよぎまわっているばかりでした。それしか考えつかないのです。

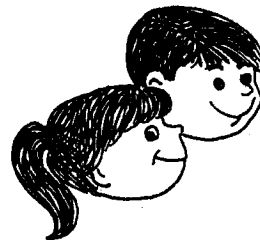
ドーラのガーガー声はゴロゴロいう音にかわかりました。白いはねが三本ぬけて水の上にかびました。七羽のちゃ色のあひるは、ただもうびっくりしてしまつて、すっかり頭にきてしまいました。

死にものぐるいで水をかいて、きしべのくさむらの中に七羽ぜんぶがとびこんでかくれてしまいました。しかしデイビイだけはちがいました。

「じっとしてなさい。今行くからね。」ぐったりしているドーラに呼びかけて、おおいそぎでそのそばにいきました。大きな足をそろえて、ふかくじっともぐって行くところまでしっかりつかまえている草の根までおりて行きました。

デイビイの足はシャベルのようにどろをのけ、草をひきあげると、ドーラはやっと自由になりました。

すいめんまではずいぶんありました。やっとの思いでかおを出すと、そのままそこにういていました。頭はぐったり、つかれたけれど、なんとしあわせだったことでしょう。ゆっくりやすんでから、デイビイは池のふちにおよいで行くと、ドーラがびったりうしろからついてきました。そしてあの七羽のちゃ色のあひるが、そのあとにちゃんといっていました。



せいとみち 聖徒の道



1968年8月号

こどものため

「マルティネスおじさん、おはようございます。ごきげんはいかがですか。」仕事台の上にかがみこんでいた老人に、ホアンはほほえみかけました。

「元気ですとも」マルティネスさんは、仕事の手を休めて言いました。「さあ、今つくっているこのベルトをみてごらん、この鳥のもよ様なかなかいだらう。」

「ああ本当だ。」ホアンはりっぱな皮細工をみていました。「ありがとう、ホアン。おかげでとても助かるよ。」うれしそうにマルティネスおじさんがほほえみました。ホアンは村の通りを歩いて行きました。村のむこうはしにいるモラレスさんの所へ山羊の乳を買いに行くところでした。乳はホアンの弟である赤ちゃんのペペのために、まいあき買いに行くのですが、いつ

たいせつな子

ロザリー W. ドス

ジェリー・トンプソン絵



もその途中で友だちやきんじょの人にあいさつするのです。

しかし、きょうのホアンの顔は、ちょっと悲しそうでした。「マルティネスおじさんのようにりっぱな皮細工ができたならなあ。そしたら少しは大切なえらい人になった気がするんだけど。この村でいちばんえらいのは何ととってもマルティネスおじさんだからなあ。」けれど、間もなくその気持はきえました。ガルシャおばさんがきれいな干しれんがの家から出てきたのです。ホアンは大声で言いました。「ガルシャおばさん、おはようございます。」「おやホアンだね。」うれしそうにおばさんがいました。「くるのを待っていたんだよ。きょうは市場の日なのでね、このかごにちょっと手をかしておくれでないか。ペニトのせなかののっけるんだけどね。」小さなちゃいろのロバのペニトは、ガルシャおばさんをホアンがてつだってかごをせなかにのせる間、じっと立って待っていました。小さなロバにおもににならないように、きちんと平均をとらなければなりません。かごの中には、とうもろこしやかぼちゃ、さとうきび、ひょうたんなどが入っていました。

自分のさくもつといっしょに、おばさんはきんじょのさくもつもいっしょをもって行ってあげるのです。おばさんのロバは、村でたった一頭のロバだったのです。

にもつをつんでから、おばさんは、さとうきびを一本くれました。「おてつだいありがとう。おかげでもつがつめたよ。」

ホアンはあまいさとうきびをしゃぶりながら、通りを歩いて行きました。ほくにもロバがいたらいいなあ。そしたらガルシャおばさんのようにみんなのものをつんで市場へ行けるのになあ。そして、少しは大切なえらい人になったような気がするの。

また悲しい気持になりました。けれども

その気持は間もなくおさまりました。通りで知っている人にたくさん会ったからです。にこにこしてホアンはあいさつしました。

モラレスさんの家では何かさわぎがきこえました。「どうしたのですか、モラレスおじさん。」しかし心のおくでホアンは、どうしたのか、ピンとききました。

「やぎがこやをやぶってにげたんだよ。」とモラレスさんがさげびました。「ほくもてつだいましょう。」ホアンは乳を入れるびんを下におきました。こやをやぶるのが何より好きな、やっかいものやぎをつかまえるのをてつだうのはほとんどまいあさのことなのでした。

ホアンがてつだったおかげで、間もなくやぎはまたこやにいれられました。

モラレスさんは礼をいって、びんにやぎの乳を入れてくれ、ホアンはまた、家に向いました。帰り道で、たとえいたずらでもあんなすてきなやぎがたくさんいたらいいなあとそればかり考えていました。モラレスさんのように、村中の人に乳があげられたらたいせつな人になるのになあ。

ホアンは乳のびんをお母さんにわたし、にわにもどってからも考えつづけました。ほくはこの村でいちばんえらくないんだもの。

ところがちょうどその時、ホアンがほんやりと悲しいおもいにふけていて、大きな石にきがつかなかったのです。ゴロゴロ、ガタン、ドシン、ホアンはその石につまずいて、いやというほど、体をじめんに打ちました。足首がとてもいたんで、足がづきづきしてきました。

「けがはなかったの、ホアン」お母さんが言いました。「足首がいたいよ」ホアンはうめきました。お母さんはそっと足首と足をさわってみて、ほっと安心のためいき

がっかりしたことに、この動物の骨がたくさんある原因が判った。そこに一つの泉がわいていて、その水は強いアルカリ性物質を含んでいた。死の近づいた象がこれを飲んだので、死が早くきたのだった。結局、偉大な象の墓場は見つからず、人々の必死の努力にも



かかわらず、いまだに不明なのである。

象の秘密の墓場が見つければ、象牙で一財産造れると、人々は信じていたのだ。この不思議な宝は何千億円にもなるといわれている。

南西アフリカの北部にはまだ探検されない広大な地域が残っているので、

このような場所が実際に存在するのはあり得ることである。象はどんなに大きくても、いくらたくさんいても、そんな広い場所なら、かんたんにかくれることができるからである。

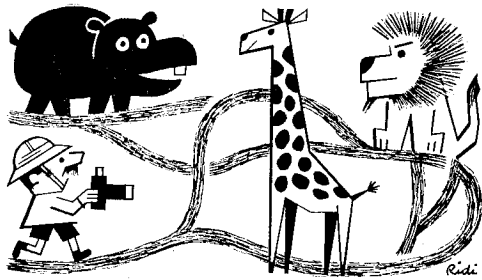
象は水が好きで、よく鼻先だけ、呼吸するために水の上につき出して水底を歩くことがある。また泳ぎがじょうずで六時間も泳げる程である。それで墓場は水中ではないかとも云われている。原住民が何度となく白人を河底や湖底に案内して象の骨の山を指し示したことがあるという。

これを信じない人は言う、「象はおぼれ死ぬことになっているので、当然水底に骨が流されてつものだ」と。

話はここで行き止りになる。三百年もいろいろと取りざたされてきたのだが、いつかははっきりすることになるだろう。その日までは、はたして象の墓場があるのか、もしあるのならどこにあるのか、これがアフリカ最大のなぞであろう。

[36ページのこたえ]

- (2) おいしゃさんのちょうしんきです。これをひとのむねにあてておとをきくのです。
- (3) ふたりともまちがいです。まるはどっちもおなじおおききです。

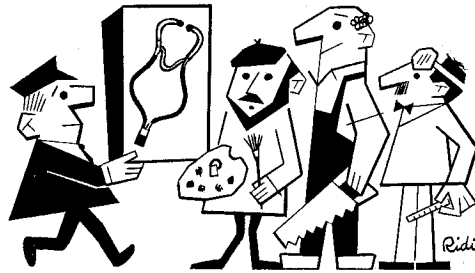


(1) シャしんやの たろうくんが

にどおなじみちをとおらないで、どうぶつのシャしんをとるには、どういったらよいでしょうか。

(2) はてなんでしょう

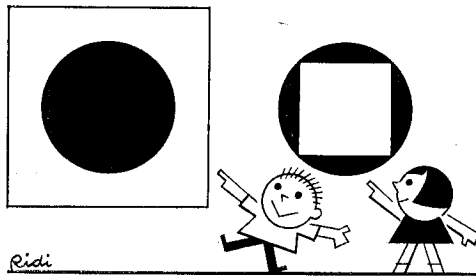
こづつみがはいったつされてきました。なかみはなんでしょう。うけとる人はだれでしょう。それはなににつかうものでしょう。



(3) どちらのまるがお おきいのでしょうか

どっちがおおきいか、ふたりはなかなかきまりません。ひとはこっちひとはあっちがおおきいといっています。さておおきいのはどちらでしょう

(こたえは39ページにあります。)

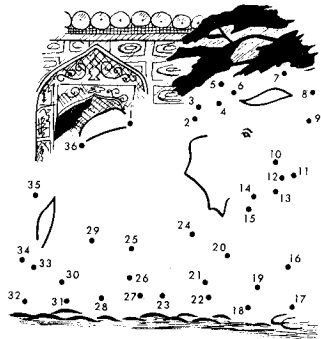


アフリカ最大のなぞ

クリストファー・フリント

少年マウリは暗い静かな密林を走り続けた。それは白人のキャンプへもどる道であった。彼の黒い足は茨のつるできずつき血が出ていた。体は汗で光り、息づかいがだんだんはげしくなってきた。彼は秘密、とても重大

な秘密を知ったので、この知らせをブワナに伝えようと懸命になっていた。とつぜん、おどろいて立ちどまった。今聞いたような気がした物音を確かめるように、おそろおそろうしろの密林の中をのぞきこんだ。幽霊の象の大



群が追いかけてくると思ったのだが、何事もなかった。

彼は再び走り始めた。時々肩越しにふり返り、持っている斧(パンガ)を握りしめた。ついに彼はドンガ(谷)に着き、足をゆるめた。

キャンプによくやって来た彼は、フラフラしながら探検隊長のところに来た。隊長は、つかまえた動物に原住民がえさをやるのをながめていた。「ブナ」マウリは息をきらしながら言った。

「みつかったよ。大きな連中が死に行く場所がみつかったよ。」

「ほんとうかい、ぼうや」隊長は叫んだ。「ほんとうに象の墓場を見たのかい。」

マウリはただうなずくだけだった。体は痛み、のどはからからにかわき、胃はからっぽだった。

翌朝早く、この原住民の少年は発見した場所に白人を案内して行った。何十キロも向うなので、ぎっしりしげった密林をかきわけて行かねばならなかった。道々、発見した様子をマウリは話すのだった。

「大きな象の王様のテンボを見たんだ。眠りの時がやってきていたんだ。それで僕はついて行ったのさ。テンボはずっと歩いて行って、一度見えなくなった。けれど、足跡をもう一度見つけ、テンボを追っていったら、たくさんの骨の間にもう眠っていたんだよ。近くには寄らなかったんだけど、急いで知らせに来たんです。」

「いい子だ、坊や。」白人の隊長は

肩をたたいた。「よくやってくれた。ほうびをあげよう」

ついに一行は広い草の高原に出た。隊長は一目見るなり叫んだ。「話の通りだ。みつかったぞ。これが象の墓だ。金持になれるぞ。」

100メートル先に、少年マウリが



けて来たテンボがいた。幾十匹もの死んだ動物の骨がするどく光る中にじっと横たわっていた。確かに象の墓場ではあったが、しかし不幸にもあの伝説の墓場ではなかった。

白く光る骨は象のではなかった。ほんの少数をのぞいてほかは、他の動物の骨だった。もっと近づいてみると、

をつきました。「ちょっとねんぎしただけよ。二、三日じっとしていると、じきなおるわ。」

次の朝、お日さまは、もう高く上っていました。ホアンはまだぎわのいすにすわりながら言いました。

「今日はペペの乳はだれがとりに行くの。」「家の仕事をかたづけたら、お母さんが行きます。」

しかしお母さんは行かなくてもよいことになりました。外で大きな声がしてモラレスさんがやってきました。「ホアンがけさこなかったからおれが持ってきてやったよ。心配になってね。いったいどうしたんだね。」それに答える間もないうちに、こんどはマルティネスおじさんがやってきました。「ホアンはどうしたんだね。けさはこなかったぞ。」

「そうだと。」まただれか言いました。ガルシャお婆さんでした。

ホアンとお母さんが、ホアンは足をくじいて二、三日休まねばならないと言いました。ところが、まどの外にはたくさんの人が集っていて、口々におみまいを言ってくれました。

ホアンは、このたくさんの友だちときんじょの人々にほほえみかけて言いました。「ぼくが見えないことをこんなに心配してくれるなんて、ちっとも知らなかった。こ

んなにぼくがたいせつにされるなんて知らなかった。」

「坊やがいなければ、やつかいなやぎをどうしたらいいかなあ」モラレスさんが笑いました。ガルシャお婆さんは言いました。「私だってどうやっていいかわからないよ。だれにてつだってもらったらいいかね。ペニトも私も、毎朝ホアンを待っているんだからね。」

「ホアンの楽しいお早ようを聞かなかったら、わしの一日の仕事は始まらないんだよ。」年よりのマルティネスのおじさんが言いました。「ホアンはやさしくて、いつもにこにこしているから、村中でいちばん大切な子なんだよ。」

ホアンは一そうにこにこしました。ホアンの心には、もう悲しみのかけらも残っていませんでした。もちろんホアンだって、自分が村一番の大切なえらい子供とほんとうに思っているわけではありませんでしたが、友だちやきんじょの人が、こんなにも自分のことをよく思っていてくれることはとてもうれしいことでした。ホアンはほんとうに人の役に立って、みんなに必要だと思われていました。こんなたいせつなことはほんとうにまたとないのです。



ディネの息子

(散文詩)

ドン・スミス

遠いアリゾナの砂漠にナバホインディアンの少年が住んでいた。彼は1949年9月5日に粗末なホーガン（ナバホ族のテント小屋）で生まれた。さてナバホインディアンであるとはどういうことなのか、また黄色い砂の国に、ディネ種族の息子として生まれたことにはどのような意味があるのかお話ししよう。

私の家、空を背に、切り取ったようにそそり立つ赤い断崖のふもとのホーガン、友だちが手伝ってくれたホーガン、六面の土壁、刻み目をつけた丸太、屋根の煙突、誰かが低い声で唱い聖なるトーモロコシ粉で祝福されて、りっぱにできたホーガン、毛布のたれた入口は朝日の方角。杉の木立のかげの夏の家、色の黒いインディアンの女の子が、羊肉を煮ながら見張る。月が低くかかる戸外で眠り、羊皮の寝床が幸せな毛皮に変わる。

それはセイジブラッシュの国を越えて、草を求めさすらう羊の群、迷った子羊の悲しげな声もかすかに、コヨーテの恐怖、物音をたずねれば、岩にはさまれたる羊、その柔らかな毛に顔をすりよせ、「子羊は全くしようのないやつ。」と幸せに想い、そして、ブリキ罐に石ころをつめて、羊を追って家路に



つく。

青く澄み渡った空の下、夢の密林に迷い込み、美のささやきが胸に聞え、美のささやきが岩に砂漠の砂にいろどられ、笑いさざめく想いと笑いさざめく心、美のささやきを砂にいろどる。自分のインディアンの血を知り、感じ、喜び、そして、時はインディアンを変え得ず。

それはわが種族、母はホーガンの家蔭に座り、たくみな指先から生れ出る敷物、白い糸筋で束ねた豊かな漆黒の髪を眺め、やせたかつ色のほほにふと触れたくなり、父は夢を銀の環に打ち、種族の良薬を信じ、美しい道を真直ぐ進ませる。

肩を丸め、しわのよった赤銅の顔の老人、白髪の老人が過ぎ去った日々にひっそりと座って、過去が未来となる長い時を、昨日の道を歩みつつ、新しい道筋も知らず、老人は老人同士、過ぎし日を語りつつ、冷えた血が物語に沸り立ち、言葉で絵を画く一時、若者はそれを聞いては想う。「古き日々はよきもの、されど永遠にかえらじ。」老人は過去をふり

かえりはせぬ。過去に生きることは、倦みたること。

白人の白い世界に囲まれ、白い世界によきものを見出そうとする。もう今日はインディアンの世界ではないことを聞いた驚き。今日の過去からもぎはなし、新しい物に満ちた多くの明日に入るインディアンたち。白人が開いた扉を通して赤レンガと見知らぬ人々の学校へ。この学校から眺めれば、新しい考え方と、新しい生き方とが種族に伝わり、若者の心を巣くう。古きと新しきが合して古い習わしに変化を生む。この赤レンガの世界に理解の顔を見出し、もっと深いところで心が理解に脈打つ。

福音は人の心をいろどり、人は鉄の棒にすぎり、甘き実にあずかり、時が来たのを知る。

ナヴァホインディアン、ディネの子にある意義はこれ。わが種類の画の一部。この画こそわが心をゆさぶり、わが民に福音を伝えんと熱き望みにもえたたせた夢、消えることのない夢を生んだもの。世界に示すべく、わが民の心を福音で、私はいろどる。





生 き ん と
す る 者 の

MIA

病院で重い病の床にふす若い女性が言った。「こんなにも生きていと願う私が死なねばならないとは」その反面50万以上のMIA会員は言う。「生きることを愛する者に、生きるためにかくも多く与えられるとは何とすばらしいことであろうか」この言葉の意味は、この世では幸福の機会があり、そして結局は永遠の生命を得、天父と共に住む機会がある。ということである。

この祝福は教会活動への参加と、時間と才能の奉仕と、同じ高い理想と標準を持った者との交りから生まれる。

ゴールド・アンド・グリーンボールの計画、準備実行、参加に多くの者は幸福を見出すのであるが、このダンスパーティーは毎年幾百となく催され、これらをのぞいてみるのも中々面白いものである。美しいドレスを着た愛らしい若い女の子たちが今、お菓子の国に模様がえされて飾られたホールに男子につきそわれて入って行く。

踊る人たちのためのレモネードが泡立ち、器はキャンディーで一杯である。華やかな色彩の菓子でできた花卉で、テーブルの中央のひなぎくの花たばは生き生きとしている。楽しい雰囲気の中でMIAの若人は律動的な音楽に合わせて踊り、呼吸をはずませて一瞬一瞬と生を楽しむ。

幸福な活動はまだある。……審判の笛が鳴り、群衆は叫び、MIAバスケット・トーナメント決勝が正に始まろうとしている。各ワード部、各ステーク部、各支部で数ヶ月前にトーナメントは始まっていたのであった。さて、今選手たちはコートの手端から端へと目まぐるしく走り、ボールは手から手へとすばやくわたり、ドリブル、パス、そしてシュート。得点の瞬間、群衆は歓呼してひいきチームを励ます。

MIAは若人を運動競技に、芸術に鍛える。その主な目的は、いかなる人生の時にあっても経験と幸福とを与えることである。

主は「才能を伸せ、そうすれば更に加えられるであろう。これらの才能は、参加人員の数程多種多様である。あるいは、歌、演技、演奏、演説、あるいは読書、裁縫、あるいは見学、など様々である。それが何であれ、その目標はこの人生での幸福の達成である。

主のみ名によって礼拝すべく集う、大小の群に良き影響を及ぼす以上に貴い業がまたとあろうか。MIAは演説の訓練をし、それを実際に用いる機会を与える、MIAの演説の巧みさとそれに盛られた思想の深さは、世の人々を多く驚かせる。若人の常に成し遂げようとする意欲は正に奇蹟とも言える。すぐれた支部演説指導者なら、常にそばにあって、若人たちに道標と訓練と知識と、そしてこれらの才能を伸す無数の機会を与える。

音楽については、MIAの靈感に満ちた音楽プログラムで、若人の声は世界中にひびく。声楽のみならず、ピアノの鍵盤を走る手から、管楽器にふれる唇から、弦をおさえる指先から、巨匠の音楽が生命に甦る。これはMIAの若き芸術家の音楽祭である。どんな小さなワード部、支部でも、必ず一人や二人、あるいは数人の音楽家、人の前に出てみたい

という人々がいるだろうし、各々の会で聴衆はそれらの才能を認め、拍手を惜しまぬであろう。音楽の幸福、行なう幸福、そして天の父に近づく喜びがそれに加わる。主は言い給う。「義しき者の歌は我に対する祈りなり。」(教義と聖約25:12)

MIAの演劇部門は創作々家と演技者のためである。作家たちは支部上演の10分間物を書き下したり、やがてはMIA出版のための二幕物、三幕物のための劇を書いたりできるだろう。すべての才能がここでは生かされる。MIAの演劇監督は特別の専門家でないかも知れないが、働き、学び、祈り、教会上演のための劇をえらび、演出する時、自分の夢想だにしなかった才能に恵まれるのである。ふた夏の間、MIAはソルトレーク市の野外テンプルビュー劇場で「約束の谷」という一時間の音楽劇を上演した。1961年から1962年にかけて、この観客は100万以上にも達し、また過去ふた夏の間、ソルトレーク市を訪れた30万以上の人々のために上演された。この出演者の大部分の演劇能力はMIAで得たものであった。

若い男子の体育と同じく、若い女子もスポーツをする。ある者はただ楽しみのために、ある者は栄冠を目指して、各種球技の活発な計画は身体的、精神的、社会的、靈的に若人の力を強くする。女子のためのMIAキャンプ計画は世界でも他に類をみないものであり、その喜びと共に、野外生活の技術を学び、自然を眺め、仲間との団結協調を学ぶのである。

あるステーク部のMIAの少女たちは、自動車洗いや、ケーキ、クッキー作り、子守り、建物をこわした後のレンガ整理、鶏肉のフライを家庭や友だちに売ったりして資金を作ったが、目的は原始的なキャンプ場の購入であった。それも三年前の話となり、今は、世界的なYWMIACAMP計画に長ずるために、毎年自分たち自身のキャンプ場へ行くのである。

MIAは、人生を愛し、かつ、現世から永遠の来世にわたって幸福な生活を願う人々のための「幸福の道」なのである。

親 族 は

わたくしの

誰 か ？

こ のような質問をもって多くの人は親族の定義を試みている。今月の勉強のために、まず、予言者ジョセフ・スミス言葉をみよう。

「地が打たれ世界が予言の如くやきつくされない中に、聖徒らが自分らの死者の救いにあるいは生存している親族を集めて救うために働く時間は余り残っていない。」

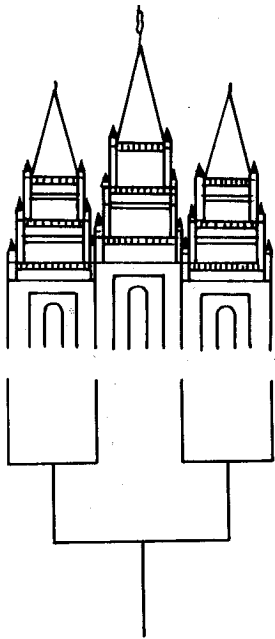
(ジョセフ・スミスの教え p. 330)

この言葉の中に述べられている死んだ親族とは、すべての血縁の者、または神殿で神権によって結び固められた者である。

今までのレッスンで、ペディグリーチャートとファミリーグループシートの使用法を学んできたが、これらの家族の記録の作成からもっと積極的な結果を得るような方法を論じてみたい。

まず、復習として、目的に向って今までになしてきたことをしらべてみよう。まずペディグリーチャートは、われわれ自身から始めて、両親、および父方、母方の両方の側をできるだけ正確に記載する。次に、ペディグリーチャートにのっているすべての祖父母及び、その子供たちのファミリーグループの記録が作られねばならない。またわれわれ自身の両親と共に、兄弟姉妹をのせた記録を作らねばならない。

ペディグリーチャート、ファミリーグループレコード(記録)の作成に当っては、生存している肉親、親族を可能な限りすべて住所と共に記載することである。それらの名前や住所の記載はすべて完全にはなかなか難いものであり、こ



れができる人はまずいないだろう。教会員でない親族はおそらく系図には興味がないし、また役に立つ必要な記録も持っていないだろうと速断しがちであるが、これは誤りである。多くの場合、そうでない例があったからである。まず関心がないと思った親族がすでに必要な記録をつくっているかも知れないのである。家族内に個人的記録がすでに完成していれば、どんなにか労力とお金が節約できるかがわかるであろう。

成功の一法は自分で訪問してみることである。親族を自分で訪問すれば、適切な質問が適切な答えを生み出してくるであろう。しばしば経験することであるが、話の最中に何気なく出てくる言葉に、以前に聞いた先祖の云い伝えなどの切れはしを組立てる手がかりが得られることがあるものである。必ずこのような訪問の記録をとっておくことである。それで後からいつでも参照できるし、いつどこでどのような情報が得られたか記憶することができる。将来、同じことをくり返すという無駄が省けるのである。一つここで申しあげたいことは、このような親族の訪問の後では、欠かさず礼状を忘れぬことで、協力に対する感謝の意を表したいものである。

また記憶しておきたいことは、非教会員である親族の系図探究の目的はわれわれとは異り得るということである。このような人々に手紙を書く時は、神殿の事業の面を強調しないで、ただ家族にとっての系図の価値を述べる方がよい。結局系図探究は神殿の事業のための道具ではあるが、この二者は必ずしも相互関係にあるのではない。系図探究それ自身は福音の根本原則ではない。ただ探究により得られた情報は、重要な神殿の儀式が代理によりわれわれの死んだ親族の昇栄と永遠の生命のために行われるためなのである。故に系図探究

の望みは賢明にして、かつ教会員であるか否かを問わず、すべて受けた助力を感謝せねばならないのは当然である。

知らない親族と接触する方法は多くある。新聞の利用価値は大きく、自分の家族がかって幾世代にもわたって住んでいたか、あるいはその可能性のある場所で、その地方紙に探し求めている名前をのせてもらって、該当者に手紙なりで連絡してもらおうのも一つの方法である。これで互いに存在すら知らなかつた一族の者があい知るようになった例がある。これは最も簡単な系図探究法である。多くの話、事実、古い手紙、新聞の切抜き、形見などが一族中であって、余り家族外のところを探さなくても、それらによって系図が完成されることがある。

また、第一に親族との接触を図る他の利益は貴重な重複の手間を省くということである。系図協会が申請の記録を受け取った数日後全く同じものを同じ一族の他の者から受けとることが少くない。これははなはだしくがっかりさせることであるが、しかしこれも探究を初める時によく一族内で連絡しあっておけば防げることである。

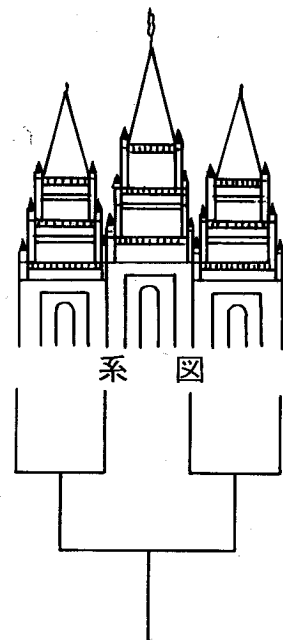
一族の者を見つける更に一つの方法は、家系調査サービスの利用であつて、これは誰でも利用できる。系図協会発行の質問用紙に記入しておくれば、自分の家系を誰かがすでに探究しているかどうかをはっきり知らせてくれる。たしかにこのような情報は必要な時にちょうどよく登録されていないかも知れないが、しかし、少なくとも半年毎に調べて見るべきである。それで、一族の他の者が登録済ならば、世界各地から名前と住所が集ることとなる。この調査用紙と説明書は各地方の神権指導者から得られる。

1969年度ハワイ神殿訪問予定者へ

なるべく早く系図及び家族の記録（少くとも死んだ先祖10名を含む）を作成して提出して下さい。提出する際必ず、1969年度ハワイ神殿訪問を明示する付箋をつけて下さい。この付箋がない場合プロセスして儀式を執行してしまいますので切角来年行っても自分の先祖の為に出来ないようになります。

既に提出済みの分は来年度訪問しないことが判明している人を除いて全部訪問予定者として待ってもらってありますから、もしその中に早く執行してもらいたい人が居たらその旨通知下さい。

又いつもそうですが来年訪問する時に自分が含まれている家族の記録を持って行くように、そしてもしその中に死者が含まれている場合には、一部を期日半年前位に提出し一部を自分が持って行くようにお願いします。





知恵の言葉

第二副管長 N. エルドン タナー

(1968年、4月7日、日曜日、ソルト・レーク、タバナクルで、N. エルドン・ターナー第二副管長が講演された原文より。)

135年前、神の予言者は私たちに、「知恵の言葉」なる啓示をお与えになりました。

「これ一つの知恵の言葉なり。……すなわち、これらは今聖徒と呼ばれ、或いは聖徒と呼ばれ得る者にして虚弱なる者、およびすべての聖徒中最も虚弱なる者の能力に適應する約束をもてる原理として下さるものなり。見よ、誠に主はかくの如く汝らに告げたもう。すなわち、末の世に於て悪しきを企つる人々の心中に現存し、また将来在らんとする悪と企図とのために、われ啓示によりてこの智恵の言葉を与えて今や汝らを警めまた汝らを預め警むるものなり。」(教義と聖約 89:1-4)

知恵の言葉の中で予言者はタバコと刺激の強い飲物について警められました。

そして彼は次の様に約束しています。

「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行ない、この誠命に従いて歩むすべての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。また智恵と知識の大なる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず、歩けども氣を失うことなからん。主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小兒たちが如く、彼らを過ぎ越して居ることなかるべし」(教義と聖約 89:18-21)

私たちは会員として、この「知恵の言葉」が主ご自身のみ言葉であり、誠命であり、聖約であると考えてきました。今日では、科学がいちじるしく発達しこの予言者の誠命が科学的に正しい誠命として実証されております。

さて、私たちは日常、新聞とか雑誌に次の様な「ハッ!」とする様なニュースを見受けます。すなわち、

「タバコの不始末、アパート火災で死者」

「青少年の麻薬常用増加——再帰の望みうす」

「三百人のパイロット死亡——原因はアルコール」

これらの新聞の見出しは明らかにタバコ、麻薬、アルコールの危険性を指摘しております。私は自分の経験から、また将来の国家と世界を担う青少年を思うにつけ、きょう、ここで特にアルコール、麻薬、とかタバコがいかにか有害かをあなたがたにお話しているわけですが、大へん残念なことに、私の仕事場にはいまだにたくさんの方々がタバコやアルコールを飲んでおられることを申しあげなくてはなりません。彼らの多くは仕事に関しては非常に有能であり、社会にとっても重要な存在です。私は彼らがタバコやお酒を楽しんでおられるのを批判したり、人格を問うたりはしたくありませんが、ただ、私はこれら有害な飲物によって彼らが日々危険にさらされていることを強く申しあげたいのです。どれほど多くの人々が「ああ、タバコや酒にふれなかったらよかったのに」と言ってきたご承知でしょう。

最近、タバコの危険性について多くのことがいわれております。今ここで喫煙の危険性及びその統計的な数値を2、3例を掲げてお話したいと思います。

英国のある医大から出された報告によれば英国では昨年1週間に400人の人がまた昨年1年間に20,000人の人がタバコによる肺癌が原因で死亡しています。ここユタ州では、1966年に煙草に費された金額は実に20,000,000ドルにものぼり男、女、子供を含む1人当りの消費額にすると21ドル68セントにあたります。これは無論国全体から見れば平均以下の値です。

アメリカ公衆衛生協会(The American Public Health Association)の報告によると1,000,000(百万人)の学校へ通う青少年が70才になるまでに肺癌で死ぬと思われます。この驚くべく数字を見るにつけ、私たちは若い人たちに喫煙の有害なことを強調し、彼らがこの問題を解決出来る様助けて

あげる責任があることを認識すべきです。

親しい交際のあった友や親類の人々がタバコによる肺癌が原因で死なれるのを見て私はこの悪習から若い青年たちを救わなくてはならないと決心しました。

青年たちをこれらの害から守るにあたり、もし彼らの両親がくわえタバコなどをしていたらどうやって効果的に禁酒禁煙の運動を行なうことが出来るでしょうか？ これは大いに問題となります。

さて、麻薬に注意を向けてみましょう。

まず昨年10月の大会以後私が経験した二つの経験についてお話ししたいと思います。昨秋の大会の始まる少し前、カリフォルニアのある監督が電話で私に彼のワード部でヒッピー族の仲間らに巻き込まれた一青年をつれて来るから会って下さいと言う問合せがありました。その監督は私が彼を助けることが出来るかも知れないと思ったわけです。彼らは大会が終つてすぐやって来ました。私が問題の青年を見て、彼の長い髪、服装、容貌からして一見してヒッピーだと判りました。そこで私は彼にこの次第を尋ねました。簡単に彼の言葉をあげてみるとこうです。

「私は帰還宣教師で、結婚して、しかも一児の父です、それにもかかわらずヒッピーになり、その上麻薬中毒になってしまいました。私は多くの非行や罪さえも犯しました。

私は最も不幸な男です。私はこんなことを望んでいるわけではありません。」

それで私は、彼の様な帰還宣教師がどうしてヒッピー族の様なグループに巻き込まれたのかと尋ねました。彼はこう答えました。

ある日、彼が意気消沈し失望した時、自分が自由になりたいという気がして、もう伝統とか教会の制約に縛られたくないと思ひました。それで結果はどうだったでしょう。「私はこんな風になってしまいました。私は奴隷の様な者です。いってみれば、逃亡者の様な者です。どうぞお助け下さい。私はもうどうしていいのかわからないんです。」といひました。

彼は帰る時自分の長いヒッピー髪を刈り、身ぎれいにしヒッピー族から離れること、また誠命を守り、悔い改め、正しく生きることを私に約束しました。その後その青年は3月22日付で次の様に手紙を送って来ました。

「親愛なるタナー第二副管長様、私は今あなたが私の本当の気持を判って下さる様祈っています。私は今牢獄につながる身となっております。私は人々が私の様にサタンの手にかからない様切に望んでおります。私の様な若い人たちが人生を大切に下さる様、私の経験を通して、申し上げたいのです。私は色々とお世話下さった監督に感謝しています。また私はタナー副管長のご忠告を感謝しています。」

私がこの青年の例をあげたのは、帰還宣教師である彼が、なぜこの誘惑に打ち勝つことが出来なかったかということをお話し上げたいからです。これは、彼の様に束縛のないしかも責任を持たない若い青年を独りにし麻薬を手にかけることがいかに危険かということです。

彼の場合は非常に悲しむべき例で、私はひどく悲しまずにはおられません。

私がお話しする次の例は他の多くの人たちにも関係があることです。私はこの話に関係のある少女とご両親に色々相談にのってあげてきました。この人たちは今私がお話ししようとしていることがご自分たちのことだとお判りでしょうが、彼らはもしお役に立てばどうぞ私を通じてお話し下さいといっておられましたので話させて戴きます。

その少女は非常にすばらしい家庭の出身で、お父さんは立派な医者で、家族は教会でも一般社会でも活発な人たちでした。その家族はちょうど伝道から帰還したばかりの息子さんと現在まだ伝道に出ている息子さんがいました。長女は非常に人望があり、教会の活動も活発で、神殿結婚をしています。私がこれから話そうとする少女は育ちの良い、頭の良い少女でしたが、彼女はふとしたことからタバコやアルコール、麻薬で遊ぶ少年少女グループと遊びまわる様になり、もしこれらのものにふけらなければ遊び友達に「変り者」だと言われると思つて自分もこれにふけりました。その結果、彼女は困難と戦うよりこの方が容易なことであり、実際その頃には、もう麻薬常用者になるということに少しも恐怖感はなくなっていたのです。

両親は娘と連絡がなかったことまた皆家族の者がうまくやっているだろうという思い違いから、自分たちの娘のやっていることに気がついた時は恐ろしさと悲しみ以外何物もなかったのです。すなわち娘さんはタバコ、アルコール、麻薬の常用者になってしまっていたのです。もちろん、ご両親は娘を一番良く全快させてくれる施設へあづける以外手の施し様がないことを知ったとき失意と当惑に打ちひしがれました。彼女は現在施設に入っておりますが、彼女の決意と闘い、また施設の援助でほとんど全快し、この週末には両親のもとへ帰ることが出来そうな所まで回復しております。

私がその少女に会って話した時に彼女が非常に気にしていたこと、また両親の心配していたことは彼女が施設から出たからのことでした。彼女はこれらの有害な物から解放されるだろうか、そしてもう心配はないだろうか？ 世間の人々は彼女をどの様に受入れるだろうか？ 彼女は自分が決心したと信じており、私たちは彼女がもう完全に立直つてくれることを望んでいます。私が彼女に以前つき合っていた友達から自由になれる勇気と力を持っているかどうか尋ねると、彼女

は確かに出来るといいましたが、さらに彼らの中の数人が今施設と刑務所に収容されているとつけ加えました。また彼女は自分のいた施設にあった非常に悲しい例を私に話してくれましたが、ある19才の少年はもう全く助かる見込みのない様な状態のようです。私たちはまたその様な若い人たちがおびえ、自殺したりするのを新聞で見えています。

今お話ししたことから、どうぞあなた方ご両親及び若い青少年の皆さん、この様なものがいかに危険なものであるかをさとしてください。こんな例があなた方ご自身の息子さん、娘さんの中に起るかも知れません。

さて、ここで、私はアルコールに対する私たちの考えをお知らせしたいと思えます。これは私たちがどこへ行こうと非常に重要な問題です。私は自分の非常によく知っているある男の人が話してくれたことを出来るだけ正確に話して見ようと思えます。彼はカナダのアルバータの石油採掘で最も成功した一人で、非常に人々に尊敬され関心をもたれ、また立派な市民でありましたが、他の多くの人々がそうである様に、社会的なつき合いからアルコール中毒になってしまいました。しかし幸運なことに、彼はアルコール中毒患者の施設の助けで立直ることが出来ました。彼が言っている様に、主の助けで彼はこの恐い病気に打ち勝つことが出来ました。

ある日、青年グループに話をしてくれるように私が彼に依頼すると直ぐさま彼は、「もし私がアルコールがどんな恐いものか、またそれが人をどんな風にしてしまうかを理解させるお手伝いが出来るとしたら、こんなうれしいことはありませんから、ぜひ話させて下さい。」と頼みを受けてくれました。彼の話はこうです。

「私が事業をしている時私は自分の会社の者たちとカクテル・パーティとかリセプションでいつも飲んでおりました。しかし、アルコールが自分に害があるなんてことは全然考えませんでした。本当に、私はこのことについて全然心配しませんでした。私は飲んでいて自分が3杯も4杯も飲んでいるのだと気が付いていても、また昼間になんか飲むべきじゃないと思いつつも常にアルコールが欲しくなり、それでも自分がアルコール中毒になっているなどは全然気が付きませんでした。

私は自分が文字通りドン底にいることに気が付くまでは自分の実態を否定していました。」

「その結果、私の同僚、社員、私を知る全ての人々、また私の妻や家族さえも、もう私に頼れず、私に対する尊敬を失ってしまいました。妻は私を説得し、立直らせようと努めたが甲斐無く、私と離婚してしまいました。

そこで、私は自分が独りぼちなことに気がつきました。私は尊敬も、家産も家族も、すべて失ってしまいました。

私は自分でドン底にいて、助けもなく、独りぼちなことに気が付いた頃アルコール中毒患者の施設へ入るよう説得されました。彼らの助けと、私の決心により、私は何ヶ月もの間の苦しい闘いの後、その悪い習慣に打ち勝つことができました。」そこで彼が指摘したことは5人の中たった1人がこのおそろしい習慣から抜け出せるということです。

彼は話しの結びに、「ほんの1杯のお酒が自分をアル中にするかしないかは誰れも判りません。ですから、どんな人でも自分が豊かであろうと地位があらうとなかろうとたった1杯のお酒でも受けてはなりません。」といいました。

彼は出席していた全ての青年たちに彼らの1人一人がアルコールに触れないように説き、アルコールを飲む人は15人に1人はアル中になることを強調しました。そして明朗で有能な人、少くともそうだと期待された人がしばしばその例にもれないと加えました。

ここにもう一つ別のご両親に私がお話しすることをお許し願いたい話があります。これも同様、彼らの息子さんに起きたような悲劇を他の若い人たちに起きないようにと切なる願いをこめてお話しします。

そのご両親から受取ったファイルには1枚の新聞の切り取ったものが入っておりました。この新聞記事は彼の悲劇が起る前に書かれたものですが、それには顔立ちのよい若い青年の写真が載っておりました。

記事には次のように書いてありました。すなわち、「活動の盛んな所、指導力の必要な所にはいつもジムの姿を見ることが出来ます。彼は学内の演劇の主役、生徒会、クラス活動、指導的活動にも全て優れています。」

すなわち、ここに将来の幸せと成功を約束された1少年がいました。しかし、ある夜彼が働いているガソリン・スタンドから彼が帰らなかったのも、両親は夜半から彼をさがしはじめたがその翌朝その父が息子を発見した時は、駐車していた一台の車のバック・シート上で暴行をうけ傷だらけになっていました。彼はすでに死亡していたのでした。そのご両親のショックと悲しみがどんなであったでしょう。

打ちひしがれたその両親は調査と検査からジムが彼の町の二人の少年と隣の町の二人の少年と一緒に酒を買い、飲んだあげく隣の町の少年と争い、明らかに誰れかがジムを打ち倒し、実に自動車でひいたのち、あとで発見された車に置き去ったものと判りました。

また両親はジムが酒を飲んだのがこれでたった3度目の出来事だったことを知りました。

むろん、彼は最初一杯目が彼の命取りになることなど夢想もしなかったのです。

私たちはいくらでもこのような話をあげる事ができま

す、またこれに関する統計的な数字、実話などを、私がお話しているようなことが何百も何千も起きていることをお見せし、お話しできます。

私が尊敬している優秀な役人、事業家には成功して、世間で非常に人気のある人たちでかなりアルコールに犯されている人たちがおります。

私はそのような人々が私たちの若い青年たちにお酒を飲むことをおぼえさせる影響を与えていることを知っております。そして、私は彼らのうち15人中1人の青年たちがアル中になることも知っております。人々の暖かい心はいつもアルコールの悲劇に悩む隣り人、友人、またその家族の者に注がれています。

私は若い人たちが悪くなりたくないと思っておられると確信しています。彼らはアル中になる理由はないし、麻薬常用者になる理由もなく、また肺癌に苦しみ、死ぬ理由もありません。

しかしながら、若い人たちは彼らのまわりでいつもお酒を飲んでいる人々を見ます——市民を指導し、代表するような人々が、また彼らはこれを病気という明白な証拠は見られませんがこれを家庭の中で見ます。また彼らはこれを流行の雑誌中の宣伝で、日々の新聞、テレビ、映画、看板で見、ラジオから聞きます、そうです、これらの宣伝の中では着こなしの良い、健康そうな、立派にやっているビジネス・マンが美しい自動車や事務所を持ち、色々なスポーツに活躍する若い男女が片手はタバコ、片手にグラスを持っている社交場に出て、それらの人々が皆楽しんでいるように見えます。

こんな社会環境でどうやって青年たちが私たちの助けなしで誘惑に打ち勝って行けるのでしょうか！このような強力な宣伝において今まで二日酔いに苦しむ男女の姿を見せたことがありますか？ また衝突して壊れた自動車、死傷した人たち、破壊された家庭、ドン底にあえぐ人々の有様を宣伝の中に見せますか、また口頭癌、肺癌の宣告をうけたばかりの人、のみ込むことも出来なくてチューブ管から栄養摂取をしている病院の患者の状態を見せるのでしょうか？

多くの人が「どうして、こんなことばかり例にあげるんだ」というに違いありませんが、私はほんの一例をあげているにすぎないのです。毎日毎日本当に多くの悲しい事件が起きているのです。私たちは現実を見つめなくてはなりません。私たちは私たちの役目を果さなくてはならないのです。

私はウイリアム・ターヒョン博士のアルコール中毒になるチャンスを少なくする十戒について興味深く読んだことがあります。その中の最後の2つの戒めは、

「肉体的または精神的のどちらの疲労にもアルコールを飲まないこと。」また

「二日酔いを柔らげるからという理由で朝アルコールを飲んではならない。」

私は彼の十戒の代りに1つの戒めを提供したいと思えます。それは、「決して飲んではならない」ということです。アルコール中毒は人が持つ必要のない病気です。これを遠ざけておきた一つの方法は決してこれを飲まないことです。

管長会の代表として、また彼らの承認のもとに私は教会の全ての会員に知恵の言葉をしっかりと守る様お願いしたいのです。また全ての責任ある市民の方々にはご自分の責任を持たれて、若い青年たちを種々の手段で破滅させようとしている人の計画からまた悪魔から彼らを守ってくださるようお願いいたします。私たちは青年たちの側にいながら、私たちの怠慢から彼らを破滅させることはできません。私たちは彼らを誘惑に導いてはなりません、彼らを悪から守ってやってください。

旅行に行くとお酒が簡単に手に入るなどといっている人がいますが、お父さん、お母さん方はこれが何んとも愚かしいことか、また若い人たちに何を意味するかお判りのことと思います。

私たちは「目さきの利益」に運命を売るようなことをしてはなりません。旅行者を励ますもっと良い方法は他にもあります。

私は旅行者を私たちの地域に来させるために自分たちのまた隣人の息子がアルコール中毒になることを望んでいる父親とか隣人たちの気が知れません。良い模範は最も優れた師であります。私たちの若い青年のために、私は、皆が「アルコールは人に悪しきものだ」といわれた主の警告を心に留めて下さる様祈っております。

私は予言者を通じて語られた主のみことばを信ずる人、また主の誠命を守る人々が「智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。」また主が約束を与え給うたことに、「さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし」という主のみ言葉を見い出されることを証しいたします。（教義と聖約89：12～21）

私は証しいたします。神は生きておられます、またイエスはキリストであり私たち全ての救い主であります。また神は私たちの福利繁栄に関心を持っておられます。願わくば主の御意と祝福があって私たち全ての者が若い人たちに誘惑をしかける人の心にある悪魔の計画から守り、彼らを誘惑の手から切り離し、悪魔から彼らを守り、神の王国と、神の御力と神の永遠の栄光にあづかれるように彼らを導くことが出来るようお助けください。



祈りの必要

副管長 ジョセフ フィールドディング スミス

(1968年4月5日、金曜日、朝、ソルトレーク・タバナクルでジョセフ・フィールドディング・スミス副管長の講演された原文より)

愛 する兄弟姉妹、今日この大会にあなた方と共に集う機会がありますことをうれしく思います。私たち末日聖徒にはなさねばならない義務が多くあります。

もし私たちがちょっと不注意だったり、ちょっと考えが足りなかったり、またちょっと怠慢だったり、また福音にある教えで、たとえそれが小さな教えであったとしても、これを軽んずる様なことがあったらどういうことになるでしょう。

もし私たちが、主の云われる「お祈りなさい」と言う忠告を気にとめない様になったらどうでしょうか。主は私たちに頭をさげて崇拜して欲しくてわれわれに祈りなさいと云われましたか。それが祈りに対する目的でしょうか。私はそうは思いません。神は私たちの父で、私たちは神を敬う様教えられ、また神に、御子、イエス・キリストの名において祈る様教えられています。主の私たちに對する御業は私たちが祈ろうと祈るまいと同じ様にこれからも続くでしょう。主は始めから終りまで全て知ってこれを行っておられます。

私たちが今地上で経験していると同じ様な経験はこの世に数多くあります。主はこれまでに他の世界にも息子や娘をおつかわしになったことがあります。そこで主は私たちがこの地上で受けていると同じ様に彼らに主に仕える機会とか、誠命をお与えになりました。お祈りは私たちの生活に本当に必要なものです。主はご自分の仕事をいかに行われるかを知っておいでですし、私たちの助けなくてもご自分の仕事をいかに処理するかを知っておられます。私たちの祈りは主に自分のビジネスをどう云う風にやって行くかを尋ねるためにあるのではありません。もし私たちがその様な考えを持てば、もちろん、それは誤った考えです。私たちの祈りは私たち自身の身のためであり、私たちを伸ばし、力と勇気を与え、また私たちの主に対する信仰を増すためです。

祈りとは心を謙遜にするものです。それは私たちに理解を深め、元気づけます。祈りは私たちが父に近づけてくれます。私たちは彼の助けが必要で、これには疑いの余地はありません。私たちは主の「みたま」の導きを必要とします。私たちは自分が主のみもとに帰るのにどの様な教えが与えられ

ているか知る必要があります。私たちは主から受ける靈感によって勇気づけられる必要があります。

これらの理由で、私たちは主に祈ります。そこで主は私たちに生きる力を与え、この結果私たちは主の真理を知り、その中に歩むことが出来、また私たちの信仰と従順を通じて、再び主のみもとへ帰ることが出来ます。

もし私たちが本当に誠実であり、全ての聖約及び主が私たちに与えた全ての真理の原則に忠実ならば、主のみもとにもどる様に復活し、私たちの体が主と同じようになり、太陽の様に輝く体を持つてありましよう。

さらに、もし私たちが地上にいる間、忠実で誠実であるなら主の息子、また娘となれるでしょう。

しかし、主は人類が復活した後に、人々を分られるおつもりです。じじつ、この地上の住人の大部分は神の息子、娘と呼ばれず、第二の世界へ召使となって入る様云いわたされるでしょう。主が「山上の垂訓」と云われるすばらしい教えの中で次の様に云っておられるのをご承知でしょう。

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは行って行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者は少ない」(マタイ 7:13~14)

永遠の生命は地上で主の誠命を守ろうとしている人々に備えられた大きな賜物です。

全ての人々が復活にあづかりますが、これが永遠の生命を意味しますか。いいえ、これは天父の云われたことばではありません。私たちは永遠の生命を別に「不死不滅」と呼び、永遠に生きる権利と呼んでおります。しかし、主は永遠の生命に對し、主ご自身のご説明をなされました。

すなわち、永遠の生命とは天父の生命と同じ生命を持つことであり、主がお持ちになる祝福と栄光と特権にあづかることであり、神の息子、娘となることが出来、主の家族員となれることです。

神の子供となるため、私たちは福音に関する全ての聖約を守らなくてはなりません。そして、この世にいる間この聖約

に忠実であらねばなりません。その後、私たちはそれを受けられます。すなわち、私たちはこの時相続人と呼ばれ、イエス・キリストと共に相続人の列に加わります。ここで私たちは何を受け継ぐのでしょうか？ 主は私たちが受け継ぐ主の栄光から遠退く様には望んでおられません。私たちは、主が所有するのと同じ祝福と特権、また進歩の機会を受け継ぐわけです。すなわち、私は次元のことを云う積りであり、永遠についてお話しています。やがて私たちは主の様に自分自身が王国と王冠を持つ様になるかも知れません。

もし、あなた方の中の誰でも、日の光栄以外の世界に生きしもべとなり多分、月の光栄に入る場合にはそれなりの権利を持つてありましょう。またそこではあなた方は什分の一を払う必要はありません。もし、この様な国に入りたかったらあなたは罪の許しとなる、バプテスマを受けるに及びません。しかし、神のみもとに行きたいのであれば、また日の光栄に住みたいのであれば、また昇栄にあづかりたいのであれば、あなた方は神の云われた全ての言葉に従って生きなくてはなりません。私たちは謙遜となり天父と密接な連絡を保つことが出来る様、また天父の近くに住める様祈らなくてはなりません。

私たちは誠実、従順、正直とならねばなりません。また主がお与えになった全ての誠命を喜んでうけながら生活しなくてはなりません。

人が主の誠命を守ることが難しいと云うなら、その人は福音の律法を破っているという悲しい告白をしているのです。癖というものは簡単につきます。良い癖は悪い癖と同じ様に簡単につきます。もちろん、もし嘘つきの癖のある場合、問題は簡単ではありません。

もし不誠実の悪癖がある場合、正直になるのは容易ではありません。また人は一度も祈ったことがないとお祈りすることが難しいものです。

これに反して、人がいつも誠実、正直な行いをしている場合、嘘をつくのは難しいものです。正直な生活をしてきた人に少しでも不誠実なものが入りこむと彼の良心の聲が高鳴り彼の心は騒ぎ悔い改めの気持がわくのみです。もし人が祈りの心を持てば、彼は祈りの中に喜びを見出します。彼は自分の願いが叶えられる確信があり、神に近づくことが容易です。什分の一は人が福音に忠実な者であれば難しいものではありません。彼は自分のかせぎの什分の一を苦もなく収めます。おわかりの様に主は私たちに偉大な真理をお与えになりました。すなわち、もし私たちが喜んで主の御意に従うならば主の支配・権力は容易であり、主から受ける負担は軽くなります。

主はこの様に、言われました。すなわち、「この故に、汝ら神の役務に出て立たんとする者は、終りの日に臨みて神の前に咎なくして立たんため、すべからく心をつくし、勢力をつくし、思いをつくし、体力をつくして神の役務をなせ。」

(教義と聖約 4:2)

もし私たち全てがこの様に神に仕えるならば多くのなすべきことを持つてよう。天の父は理屈に合わないことは何一つ要求しません、主の要求はその律法にそって与えられます。またそれは主が自ら従う律法であります。あなた方は永遠の父と救い主が何もしないとでも思っているのですか？

私たちは天父の偉大な御業、御子の御業はご自身のためではないことを知っております。

天父と御子はこれからも同じ様に人のために働いて行きます。人が教会に入れば父なる神と御子と聖霊の導きに従わねばなりません。そうすれば、福音から得られる全てのものを受けることが出来ます。これらの必要条件は悔い改めと神の王国を求める全ての人に作られています。もし人が何か別の方法で得ようとする、彼は盗みを行う者となります。

なぜでしょうか。それは彼が永遠の生命を不正な手段で得ようとしているからです。彼は高められる手段を偽せのコイン(貨幣)で得ようとしているからです。これは行われてはならないことです。

福音の儀式に従順となることは全ての人に要求され、人は主が与えられた律法にそわずして王国に入ることは出来ません。救い主は私たちに互いが愛し合うことを教えるためこの世におみえになりました。救い主の教えは、苦しみと死の贖いによって私たちが生き、互いに愛し合うことを教えられました。私たちは救い主のこの贖いに報いるためお互いが助け愛し合わなくてはなりません。私たちは救い主が私たちに尽された無限の奉仕に対して奉仕でむくいることによって私たちの感謝の気持を表わすべきではないでしょうか。

自分のことばかり考えて教会のことをなそうとしない人は決して高められないでしょう。

例えば、喜んで祈ろうとする人、什分の一を収めようとする人、奉仕しようとする人、教会に進んで出席しようとする人であっても、これらを自分の個人的な生活以外の目的でしようとする人は決して完全な目的に到達出来ません。奉仕は他人のために与えられねばなりません。私たちは不幸な人々に手を差し伸べなくてはなりません。私たちは真理を聞こうとしない人々、精神的に暗い生活を送っておられる人々に暖かい手を差し伸べなくてはなりません。また助けを必要としている人、苦しんでいる人を助けなくてはなりません。皆さんはどうでしょうか？ ここで私たちはシオン山の救い手であることをウィル・エルトン・ブレンの詩によって考えてみましょう。その詩はこの様に始まっています。

「今日われ善きことせしか？ 人を助けしか？ 悲しきをも慰めしか？ かくせずば悪し……」

(讚美歌92「今日われ善きことせしか」)

そして、私は私たちの誰れもが天にいます我が父に奉仕するのを「怠る」ことのない様に祈ります。主どうか私たち全てをこれからもさらに祝福をくださり主の道に歩むことの出来る様お導きください。この話を謙遜な祈りをもって、イエス・キリストの御名によりお話しいたしました。



再び生れ変わる

副管長 アルビン R. ダイヤー

(1968年4月6日, 土曜日午後, 第138回, 年次総大会にてアルビン R. ダイヤーによって講演された原文)

私は今日ここで私が立っている側に私の愛する妻が同席しているように感じます。私の家族と彼女は主に仕えようと努力する私の大きな助けとなってきました。

何年も前一人の有名な弁護士がナザレのイエスについて調査し人が永遠の生命を求めのためになさねばならぬ条件について調べていました。主が与え給うた答は簡単でしたが、この頭脳明晰な教育のある人でも容易には出来ませんでした。

主は彼に次のようにお答えになりました。すなわち、人はもし神の王国に入り天父とその御子イエス・キリストの光り輝くみもとに住みたいならば「再び生れ変わる」必要があらうと云われました。

「再び生れ変わる」ということはイエスが、ニコデモに教えられたと同様、福音への帰依の基本的要素であります。人は同様の方法で、多分前ぶれがなくとも、地上での生涯で色々な方法で「再び生れ変わる」ことがあります。普通これらは重要な事件とか、悲劇に深い関係があります。しかし「生れ変わる」ということは生活の変遷にある「生れ変り」とは違います。

私は今「死」に関して、二つの観点から考えて見たいと思います。私が執事だった少年の頃、私は馬鹿気たことだが、口にビーズ玉で飾った6センチぐらいの長さの帽子のピンを口にくわえていました。私は家の窓の下の椅子に坐っていましたが、その時雷がすごい勢いで鳴ったので、その拍子にそのピンを飲み込んでしまいました。私は自分がしてしまったことに気が付いてびつくりしてしまいました。私はひざまづいて私が無事である様に祈りました。私はその時、私がそれから一生を主に仕えることを約束しました。私はその時神と

の対話で私が「生れ変わった」と信じています。

もう一つの出来事は私の妻メイと私の二人の子供グローリヤとブレントと私に起った出来事です。私たちは冷房のない車で暑い砂漠を運転してやっとの思いでサンタ・モニカのビーチにたどり着きました。私たちはすぐ海水着に着がえてビーチに行きました。メイと子供たちは砂浜にとどまり涼しい風を浴びながら遊んでいました。しかし、こんなことぐらいでは私は満足出来ないで海に飛び込み泳ぎました。

そして私は知らぬ間に思わぬ遠い所まで泳ぎ出てしまっていました。私が岸へ泳ぎもどろうとしたとき足もとの方に渦があるのに気が付きました。私は全力をふりしぼって闘ったが効果はありませんでした。

私が自分の苦境に気が付いたときには、溺れかかっておりました。私は自分の愛児をもうこの世で二度と見ることはないだろうと思いました。しばらくして私は自分に非常に力強い物を感じて、自分が直面している危機から脱しようとする力が溢きました。

そこで、私は大声をふりしぼって助けを求めました。打ち寄せる波の音とかすみのかかった空気にもかかわらず、私の助けを求める声は、近くにいた救助隊の人たちにとどきました。その時私は自分の力をほとんど使い果しておりました。

私は岸に着いて救けて下さった人に私の感謝の意をのべた後、砂の上に坐して祈り、天の父に感謝をのべました。私はその日新しく生れ変わったと信じています。すなわち生きることが価値あることをつくづく知ることが出来ました。

多分、「生れ変わる」ということは今一つのチャンスを持つことであり、人の努力を評価し直すことで、私はこの様な経

験を通じて神にお仕えするお召しのあったことが生涯に何度もあった様な気がいたします。私は昨年10月の大会で使徒の召しがあった時もこれを感じました。私は今日、私が「生れ変る」ことは神に献身することにある様に思います。

私は他人のことをあまり考えていないのではないかと良心の苛責を感じます。また他人が私をよく思っていないのではないかと感ずることがあります。人は反感をかったからといってその人達と同じ様な心を抱いてはならないしむしろ、彼らを説得しなくてはなりません。

もし私の生命がこれで終りなら、またもし「生れ変る」ことがないのでしたら、どうでしょうか。私は自分に生れ変りがあったのを感謝しています。

私はご理解ある心の持主であるデビドO. マッケイ大管長に非常に感謝しております。私は彼を非常に愛しております。私たち二人のおつきあいはもう長いものになります。

ふりかえるに、私は自分が監督だった頃、彼が私のワードの聖餐に所望されて訪問して下さったことがあります。大管長は私たちワード部が若い青年たちをうまくおさめていることを知ったのでご自分の意志で訪問したと云っておられました。聖餐会に集った人々はその時のことは決して忘れないでしょう。または偉大な人、靈感を与えられ、これまで私達を指導して下さる真の神の予言者をその時本当に感謝する様になりました。

私が欧州伝道部長の頃に受けたマッケイ大管長の電話や手紙はいつも彼の伝道に対する深い関心の証拠であり、私たちに確信をもたらしてくれました。私は一度彼が午前2時頃ノルウェーに電話して下さったことを憶えています。ちょうど私はその時ベットに眼れず横になっておりました。私はその時伝道のことで私自身で解決出来ない事が起っていたので何か確信出来る様なものが必要でした。ちょうどその時電話して下さったマッケイ大管長の声は正に天からの光の様でありました。

また私は、伝道への関心と、天父の偉大なる末日の御業である予め準備されたミズリーの地の「塔の見張り番」となるべき私の使命に感謝いたします。

私はマッケイ大管長と何度も近づきの気持を持った事があります。私は私の頬を彼に押しつけ、溢れる涙を感じました。私は大管長の度量に感謝し決してこれを裏切ることはありません。私は幹部の兄弟達が私に信頼と確信を証して下さるのでこれに感謝しています。

私は彼らが教会の仕事の管理に献身と勇気をもって行っておられることに手放しで尊敬の念を抱いております。

兄弟、姉妹、これは主の仕事であります。そして、私たちは最後にきたる勝利を心配する必要はありません。私がこれまで何度も証して来たことですが、予言者は神の代りになって私たちに約束されています。

私は予言者ジョセフ・スミスが挫折した際、主が彼に云われた言葉を思い出します。その時主が云われたことは今日で

もなお真実であります。ここに主の助言の言葉があります。

「神の業、計画、目的が破れ、また水泡に帰するは共に有り得べからず。神は曲れる道を歩まず、また右手にも左手にも曲らず、また宣べし事と違ふところなし、故に、神の道は直くしてそのふむ道は永遠にかわらぬ一すじなり。破るるものは神の業にあらずして、人間の業なるを決して忘るべからず。」
(教義と聖約 3:1~3)

また神のよき時代に新しいエルサレムの町として建設されると予告され、神の民を受け入れるかくれ家として主に定められたミズリー州、ジャクソン郡の聖なる土地を離れる事を余儀なくされた聖徒が艱難に会った際に、主が彼に与えられた言葉があります。

予言者ジョセフはこの苦しい試練に際し主に熱心に祈りました。

予言者スミスはうろたえ、悲しみ果てた聖徒に手紙を送りその中で彼がミズリーで聖徒が苦しみ、堪えていることを良く知っており、会員たちが如何に罪のない人々が罪人のために償いをしているかについて書きました。彼はさらに次の様に続けています。

「天にいますイエス・キリストの如くあって、私がある方の行為の正しい事を知っております。共に思い共に証しをもち、共に語り何時間も楽しい時を過した兄弟たちが今追い出され世の中で云う他人とか移民の如く空腹、寒さと欠乏、危機と略奪に露されるのを知るとき私の気持を抑えるのは難しいことです。

また私がこれを黙認するとき、私がこの神の摂理に不平を云いたくなるのをおさえるのは難しいことです。しかし、これは正しくないと思います。神よどうか、私達をしてあなたの偉大な苦悩と受難に反かず、またキリストの愛から私達を切離すことがない様に」

(D. H. C. 「教会歴史記録」 1:454英文)

教義と聖約中の次の言葉は主が予言者ジョセフ・スミスに与えられた答えであり、保証であります。

「故に、シオンに就きて汝ら心安かれ。そは一切生くる者がわが手の中に在ればなり。汝らつつしみて、わが神なることを知れ、シオンの子ら如何に追い払われるとも、シオンはその場所より移るべからず。およそ亡びずして存し、心の清き者たちは帰り来らん。これらの人々とその子供たちは永遠の喜びの歌を唱いて彼らのゆずりに来たり、シオンの荒れたる地点を築き上げん。すなわち、予言者たちの言に応ぜんためにすべてこれらのことは起るべし。」

(教義と聖約 101:16~19)

ビルス伝道部長ご家族来日

7月16日 新伝道部長ご家族が来日された。写真左より、ラニー兄弟8歳、スカット兄弟18歳、ランディー兄弟16歳、ビルス部長、ローリー姉妹13歳、ビルス姉妹、ラッス兄弟15歳。



翌17日夜、東京西支部にて歓迎会が開かれた。

(写真提供 荒井薫, 高橋実兄弟)



空港での両伝道部長



伝道中の兄の通訳で話す一人娘のローリー姉妹



ビルス姉妹

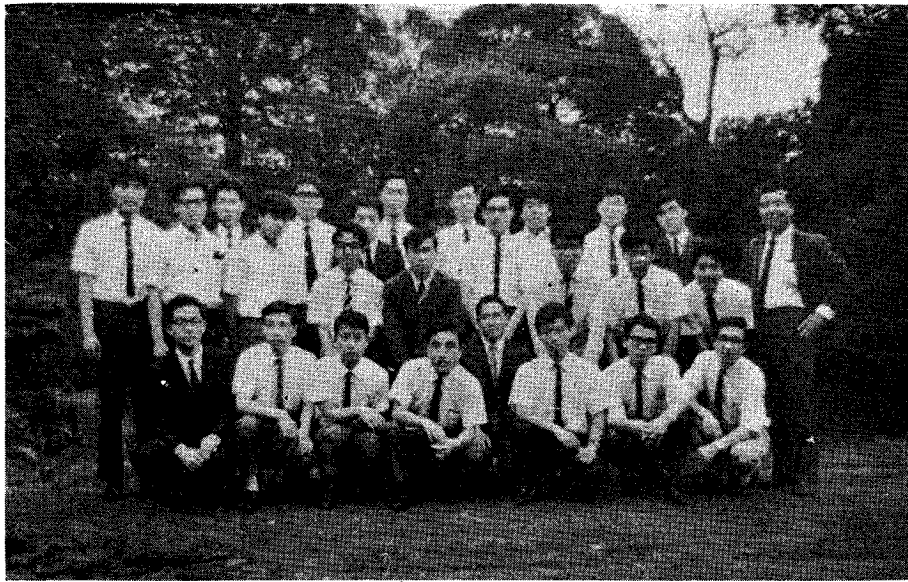


最年少のラニー兄弟



東京西支部での歓迎会

京浜地区 アロン神権スクール



アロン神権スクールに集った兄弟たち

東中央地方部京浜地区のアロン神権スクールは3月にスタートしました。各支部より希望に満ちた若いアロン神権者が第2と第4日曜日午後5時半より東京中央支部に集ってきます。地方部役員と各支部から選ばれた教師二人ずつ組になり、教義面と実際面からレッスンを進めています。テキストは信仰簡条の研究を用いております。信仰簡条その全部を暗記した兄弟も数人います。卒業するまでに全員暗記されるにちがいありません。ここで学んだ兄弟の中からやがて支部、地方部、伝道部の役員が生まれ、活躍する日がやってくるにちがいありません。

アロン神権スクールに集って

森下雅行 東京北支部

教会における神権会、日曜学校、及び、MIAで断片的にしか学ぶことが出来なかった福音が毎月2回すぐれた指導者から系統的に学ぶことが出来るというのは、素晴らしいことである。使われた「信仰簡条の研究」は、とても、すぐれた、テキストであり、この本一冊で末日聖徒の教えをほとんど、示しているといっても、良いだろう。この神権スクールで学んだ知識によって求道者の質問や自分自身の疑問に対しても、答えを見出すことが出来るようになり生徒として、教師として、神権スクールで学んだことを大いに役立たせようと思っている。

杉本隆重兄弟 東京西支部

神権を受けてまもなく地方部主権の神権スクール特別プログラムが計画され、私達アロン神権者が、真の生きた福音のレッスンを受け進歩する機会が与えられましたことを指導者に深く感謝しております。

兄弟達の大声のあいさつと、大声のコーラスとで、この活気に満ちたレッスンが始まります。知識というよりは、むしろ先生方の豊富な経験、生活、知恵、モルモンとしての物事の見方、考え方など、素晴らしいモルモンイズムが展開されます。

一言も聞き漏さんとする兄弟達の熱心な顔、熱の入った先生の話、ひとつとなつて学ぶ時、私達は、ほんとうに、「行なわなければならぬ」と思っています。漠然としてではなく、建設的で、力強い気持ちと強い兄弟愛と靈感を強く感じます。教会員としての誇りと、喜び福音を学ぶ楽しさを感じることが出来ます。

一時間半があつと言うまに終り、ざんねんな気持ちとまた集おうという気持ちで外に出ます。固い握手で「またさらい週会いましょう」と大声であいさつし、胸一ぱい張りつめた気持ちを持ってそれぞれの支部に帰っていきます。

1968年度(1~8月)

北部極東伝道部アロン神権活動計画

統一テーマ 教義と聖約 88:123~126(暗記)

期	月	目 標	暗記聖句	読書過程
第 一 期	1 ・ 2 ・ 3	神 権 組 織 の 充 実	教義と聖約 107:18~20	高価なる真珠 ジョセフ・ス ミスの書1,2
	4 ・ 5 ・ 6	各 神 権 の 責 任 と 義 務	教義と聖約 84:33 ~ 39	聖 書 創世記1~8章
	7 ・ 8	奉 仕	教義と聖約 121:34~37	モルモン経 イテル書 1 ~ 6 章

汝ら互いに相愛するように心がけよ。貧るなかれ。而して福音の命ずる如く、互いに物を頒つようになれ。怠惰なるを止めよ。不潔なるを止めよ。互いに欠点を探すを止めよ。度を過ぎて眠るを止めよ。早く臥床に入りて疲れを休めよ。朝は早く起きて汝の肉体と精神とを活気づけよ。汝ら何よりもまず、外とうの如く愛のきずなをもて身に纏うべし。そは完きと平和のきずななり。わが来るまで気落ちせぬ様に常に祈れ。見よ、みよ。われ速に來りて汝らをわれに受け入るべし

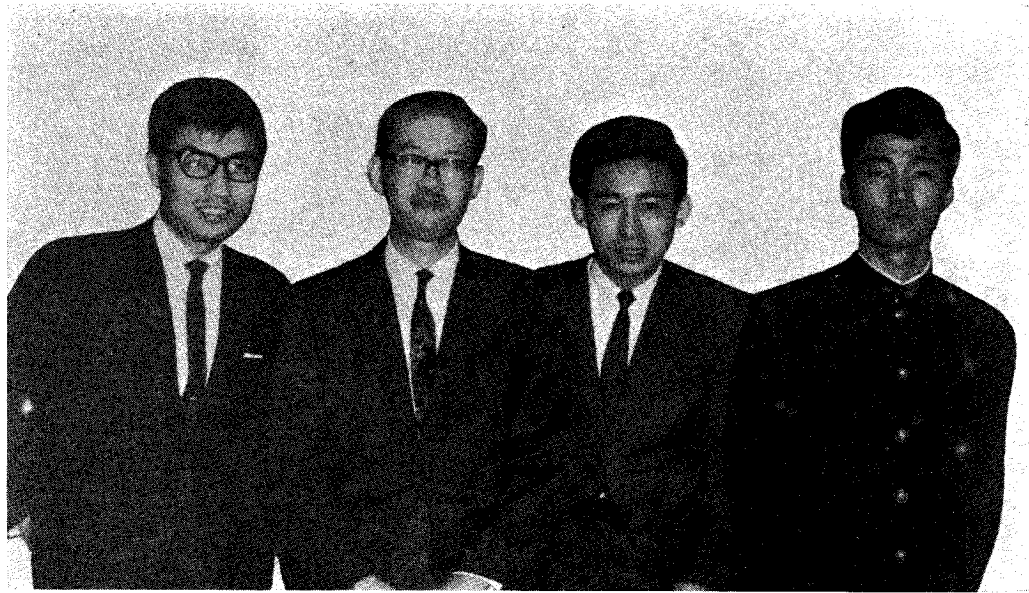
(教義と聖約88:123~126)

今年度も終りに近づきました。

アロン神権者は上記の活動計画を再検討して豊かな実を結び、力強い神権者としてご活躍ください。

伝道部日曜学校役員紹介

この度、伝道部日曜学校会長会が新たに召され、按手任命されました。伝道部が分割され、拡大的発展を目の前にして、より一層の努力をしたいと思えます。そしてこの時こそ、主の言われた「汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば、汝はわがものにあらず」の誠命を心から実行すべき時です。日曜学校も皆様のお助けを得て、発展的拡大したいと思います。来年度のテーマは「よき教師」です。教師養成会への積極的参加、視聴覚教材の充実等を通じてテーマを実行して下さい。



会長 上野道男 (横浜) ソニー商事KK
第一副 高橋実 (北) 東京天文台
第二副 八木沼修一 (北) 翻訳事業部
書記 板倉東夫 (横浜) 明治大工学部

1969年度テキスト紹介

日曜学校

- Aクラス 「聖書物語」
- Bクラス 「奇しきみわざ」
- Cクラス 「福音の紹介」
- Dクラス 「シオン山の救い手」
- Eクラス 「家庭における神権の発揚」
- Fクラス 「昇栄への道」
- Gクラス 支部長レッスン

MIA

- エンサインローレル 「神と人」
- エンメングリーナー 「生活の目標」

神権会

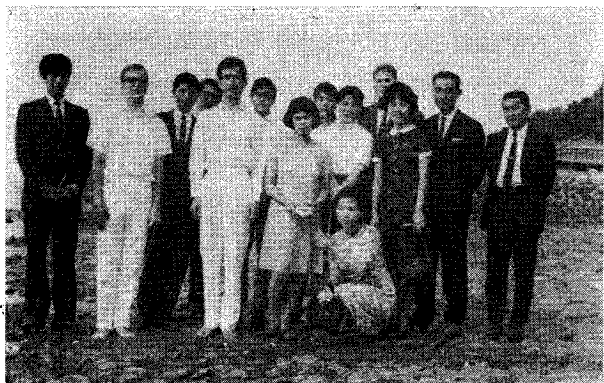
- 長老 「不死不滅と永遠の生命」
 - アロン神権 「アロン神権教師テキスト」
- (ゴシックは新刊です)

愛読者の皆さんへ

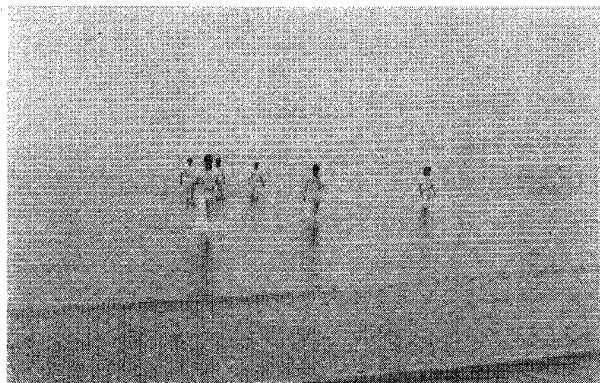
聖徒の道の予約手続きは終わりましたか

9月号より、聖徒の道も新年度に入りますが、あなたの予約手続きは終わりましたか。
年間予約は1,000円ですので、まだの方は至急支部長会に申し込んで下さい。

支部だより



赤瀬海岸でのバプテスマ風景 未来の大神権者誕生



有明海よりバプテスマをおえてひき上げる聖徒たち

熊本支部

熊本において伝道が開始されてから早一年半を過ぎてしまいました。そして今年の1月に九州地方部が出来、熊本も「熊本支部」として新たにスタート致しました。そしてすべてのプログラムも一つ一つ充実してきております。また若い私たちの支部は恵まれて今年4月に新しい集会所を頂くことが出来ました。ほんとうに神様の大きな祝福だと感謝しております。

日曜学校、MIA、また扶助協会、神権会等も前にくらべると目に見えて成長しています。また私達は今までに充分に出来なかったいろいろなことをより良く出来るように頑張っています。熊本支部の開設当時の会員数は5名程でしたが、日がたつにつれて会員もふえ現在では29名になりました。6月23日に年輩の兄弟がバプテスマを受け、続いて6月29日には若い1人の兄弟と2人の姉妹が神様のまた兄弟姉妹達の導きによってバプテスマを受けました。熊本支部で3人いっしょにバプテスマを受けるのは初めてのことでした。その日はちょうど雨が降っていましたが、海には人けはなく素晴らしいバプテスマ会でした。7月末にも1人の兄弟がバプテスマを受ける予定になっています。会員達は必ず1つは教会の責任を頂いています。ある人は1人で3つ位の責任を頂いており、ちょっと大変ですがでも私達は1つでも多くの責任をいただき、それを一生懸命に果し頑張る時に神様からたくさんの祝福があることを知っています。この時期が熊本支部にとってまた私たち1人1人にとって、もっとも成長する機会だと信じてみんな頑張っています。

熊本支部と同じにまだ若い支部が大きく成長することを祈りながら、ペンをおきます。

高松支部

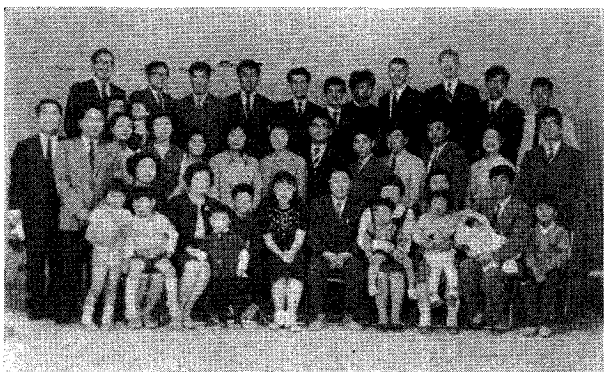
6月8日 川本忠秋兄弟と秋山光代姉妹が高松支部にて多くの人々の祝福を受けてご結婚なさいました。高松支部初めての家族が誕生しました。

室蘭支部

全国の兄弟姉妹お元気ですか。久し振りに室蘭支部を紹介させていただきます。平林兄弟、三浦兄弟宅で男児が出生。またモルモン二世が増えました。支部大会が6月20日から30日まで開かれました。大会のテーマは『定例集会の充実』です。火曜日は扶助協会で地方部の鮫島姉妹を迎え5人の方からのお話がありました。その後、証詞会があり、証詞をつよめることができました。またMIAでは活動の時間に各国の服装をし、その国の民謡などを歌い楽しい会でした。土曜日は長老定員会主催で親睦パーティーがあり、多くの兄弟姉妹お友達が集まりゲームをして楽しいひとときを過ごしました。最後の日曜日は神権会、一般大会が柳沢地方部長管理のもとで、行なわれました。一般大会では各補助組織の会長と長老定員会のグループリーダーが大会テーマに沿ってのお話をされました。また、午後の部では支部長、第7長老定員会会長、地方部長のお話があり大会を閉じました。室蘭支部の会員一同は1年間、この支部大会のテーマにかなう教会活動を続けていく決意です。



川本ご夫妻

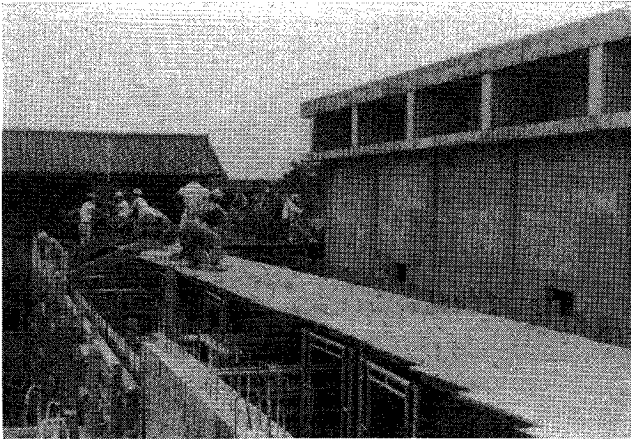


支部大会に参加した人々

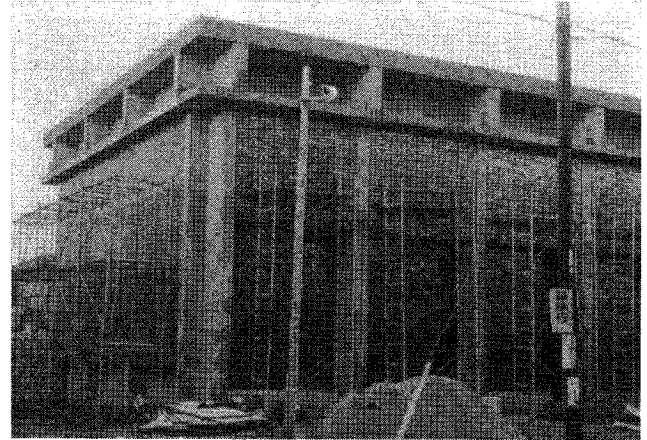


MIA大会 衣裳は良いが唄は仲々

岡町支部の建築進む



クラスルームのコンクリート入れ



礼拝堂の外装部

支部所在地

北海道地方部

- 旭川 旭川市8条5丁目
電話 (0166-25-1545) 郵便番号070
M I A集会所 旭川公会堂
- 室蘭 室蘭市幸町12-9
電話 (0143-2-7054) 郵便番号051
- 小樽 小樽市富岡町1-5-23
電話 (0134-2-8224) 郵便番号047
- 札幌 札幌市南20条西16丁目
電話 (0122-56-7175) 郵便番号060

東中央地方部

- 福島 福島市渡利字小久保8-7
電話 (02452-23-5313) 郵便番号960
- 群馬 高崎市並復町275
電話 (0273-22-7121) 郵便番号370
- 甲府 甲府市中央3丁目12-2
電話 (0552-33-2409) 郵便番号400
- 松本 松本市開智1-1-6
電話 (02634-3-8093) 郵便番号390
- 新潟 新潟市明石2-2-5
郵便番号950
- 仙台 仙台市光禅寺通り28
電話 (0222-25-0897) 郵便番号980

東京中央

- 東京都港区北青山3-6-4
電話 (03-400-3307) 郵便番号107
- 東京北 東京都中野区江原町1-8-14
電話 (03-953-8244) 郵便番号165
- 東京東 東京都江戸川区西小岩5-8-6
電話 (03-658-7310) 郵便番号133
- 東京南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (03-729-6311) 郵便番号145
- 東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-7-7
電話 (0422-22-6764) 郵便番号180
- 山形 山形市七日町4-12-23
電話 (02362-3-3380) 郵便番号990
- 横浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (045-401-8772) 郵便番号222

西中央地方部

- 阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (06-623-4315) 郵便番号545
- 広島 広島市高須2-7-29
電話 (0822-71-5309) 郵便番号733
- 金沢 金沢市兼六元町3-8
電話 (0762-21-2131) (郵便番号920)
- 京都 京都市左京区下鴨松原町44
電話 (075-701-4067) 郵便番号606
- 名古屋 名古屋市昭和区北山町3-14
電話 (052-731-4210) 郵便番号466
- 名古屋北 名古屋市昭和区北山町3-41
電話 (052-731-4210) 郵便番号466
- 西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4-54
電話 (0798-51-0141) 郵便番号662
- 岡町 大阪府豊中市岡町北2-18
電話 (068-52-1236) 郵便番号560
- 岡山 岡山市学南町1-13-11
電話 (0862-52-3560) 郵便番号700
- 三ノ宮 神戸市灘区篠原本町4-6-28
電話 (078-86-2602) 郵便番号657
- 高松 香川県高松市末広町1-8
電話 (0878-51-4708) 郵便番号760
- 柳井 山口県柳井市今市391
電話 (106申込柳井7) 郵便番号742

九州地方部

- 福岡 福岡市浄水町46
電話 (092-52-8653) 郵便番号810
- 北九州 北九州市小倉区大字砂津日之出町340-6
電話 (093-55-4659) 郵便番号802
- 熊本 熊本市東寺原町64-42
電話 (093-54-9017) 郵便番号860
- 長崎 長崎市片淵町2-7-17
電話 (0958-22-5726) 郵便番号852

沖縄地方部

- 普天間 沖縄宜野湾市野嵩区328
- 那覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (3-1620)

建築部事務所

- 東京都港区北青山3-6-4
電話 (03-400-4080) 郵便番号107
(誤まりのある支部の支部長はご一報ください)

律法なき生活

リチャード L. エバンズ

最も感謝されるべきものの中に、誠命、標準、規律、法律などがある。これらなくして、頼るべきものはなくなる。教師も教授も学校も、卒業や学位の基準、開業の資格を明確にしなければ、いかにして始めるかも、いつ要求を充たしたかも判らないだろう。親たちが子供に対する期待を明らかにせず、ただ好きなように行動させるならば、また神がわれわれへの期待を明かにせず、目的も、標準も、条件も、誠命も与えなければ、無知の故にどんなふしだらな、無力な人世となっているであろうか。人生の最大の祝福の一つに法がある。それなくして財産の所有もあり得ず、安全の保障もなく、文化も成立せず、生活それ自体不可能となる。

どんなに無視されようと、あるいは濫用され、犯されようと、結局われわれを共に支え、仕事の報酬を保証し、財産を確保し、個人を保護するのは法なのである。無法者の生活さえ法なしには、なし得ないのである。故に誠命に背き、すてる前に、身持ちの良さをほこる前に、伝統を破りかつ責任ある行為を嘲る前に、法を行う者を軽んずる前に、われわれに関心を持ち、心配してくれる両親、教師たちにさからう前に、まず考えてみたいことは、法なくして、こと人生はいかなるものとなるか、いかに所有は少なくなり、生産も教養も生まれなくなるか、ということである。自分への期待を知ったこと、両親の導きとしつけ、標準を与えてくれた教師たち、そして目的と忠告と誠命を与え給う父なる神の存在、これらを神に感謝しよう。法、誠命、標準、規律などがなければ、人間は全く放縦に溺れて、迷い失われてしまうであろう。

(1967年5月19日、K,S,L及びコロンビア放送によるテンブルスクウェアよりのスポークンワード。版權1967年)

FEN放送(810kc)で毎日曜日8:05~8:30 a.m
まで、スポークン・ワードとタバナクル
コーラスが放送されています。

聖徒の道

1968年8月20日発行

振替口座 東京16226番

発行人兼編集人 ウォルターR. ビルス

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話(442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間1,000円(外国4ドル50セント)

電報受信略号 「トウキョウ」マツジツ